

鳥取県がん検診実績報告書

令和2年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

はじめに

国立がん研究センターより平成30年のがん75歳未満年齢調整死亡率が公表されました。鳥取県における年齢調整死亡率は全国平均よりかなり高いところで推移しております。特に平成25年以降は北海道、青森県、秋田県と共に年齢調整死亡率の高い地域と位置付けられていましたが、平成30年は10万人対の死亡率で72.2と前年の86.0から大きく改善しました。都道府県別に順位付けをすると前年の46位から30位と改善した事になりますが、単年の結果だけで評価することはできません。来年度以降の経過も引き続き注視してまいります。

75歳未満の年齢調整死亡率においては、特に働き盛り世代の死亡率減少が重要となります。市町村のがん検診受診率も十分とは言えませんが、職域検診においてはがん検診の内容にばらつきがある事、要精検と判定された時の精検受診率の低さが問題点としてあげられます。県内事業所全体を網羅的に把握する手立てがありませんが、最も受診者数の多い鳥取県保健事業団実施分の職域検診受診者では平成30年度大腸がん検診の精検受診率42.9%、胃がん検診では56.8%、肺がん検診では76.0%、乳がん検診では69.1%、子宮がん検診では45.0%と報告されています。参考までに平成30年度市町村がん検診の精検受診率は大腸がん検診77.8%、胃がん検診87.5%、肺がん検診91.0%、乳がん検診93.3%、子宮がん検診78.3%であり、がん検診のプロセス指標の許容値をいずれも上回っています。アンケート調査である国民生活基礎調査でのがん検診受診率がおおむね50%であることを考えると、せっかく受診したがん検診にも関わらず、がんの早期発見に結び付いていない可能性があります。市町村のがん検診において精検受診率向上のためにはかかりつけ医や市町村からの受診勧奨が最も有効とされています。県としても職域がん検診の精検受診勧奨強化事業として検診実施機関からの受診勧奨を強化する委託事業を開始しています。職域検診が事業主の義務としてではなく、福利厚生の一部として行われている事が多く、事業主でさえ個人情報である検診結果を把握していないことは珍しくありません。一般的に大企業では常勤の保健師が検診の精度管理を行い、高い検診受診率と精検受診率を保っており、精検受診のための医療機関受診の際にも休暇がとれる環境にあります。中小の企業が多い当県において、今のところ検診機関からの受診勧奨以上に精検受診率を向上させる手法は見いだせていません。職域検診においても精度管理に関わっていく手立てがないか引き続き検討を続けていく必要があります。

例年どおり平成30年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。がん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸甚です。

令和2年3月

鳥取県健康対策協議会

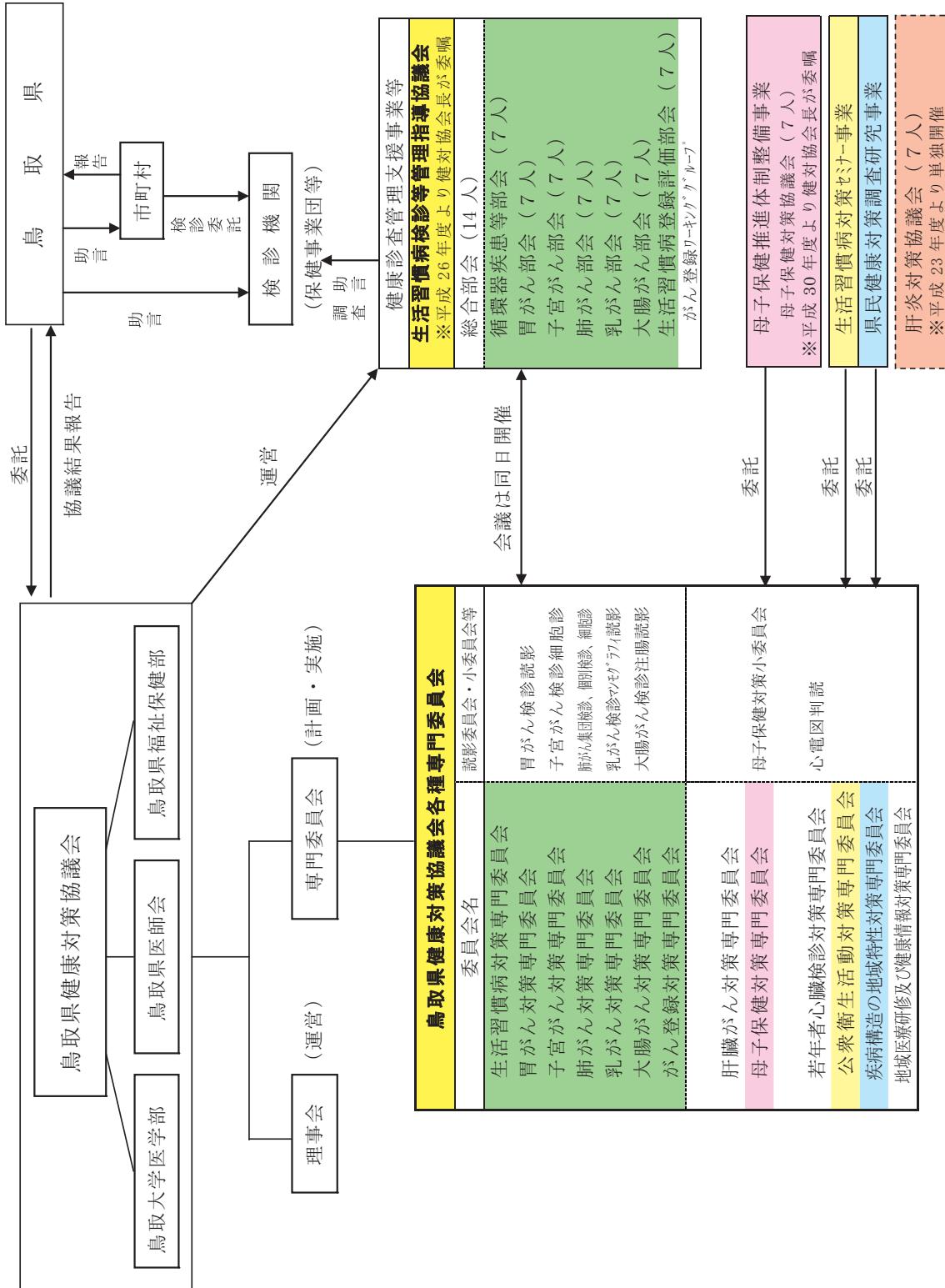
会長 渡辺憲

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図.....	1
II. 平成30年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診.....	4
2. 子宮がん検診.....	17
3. 肺がん検診.....	26
4. 乳がん検診.....	40
5. 大腸がん検診.....	47
6. 肝臓がん検診.....	56
7. 全国がん検診実績との比較.....	66
III. 令和元年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告.....	70
2. 子宮がん検診症例研究会報告.....	72
3. 肺がん検診症例研究会報告.....	74
4. 乳がん検診症例研究会報告.....	76
5. 大腸がん検診症例研究会報告.....	78
6. 肝臓がん検診症例研究会報告.....	80
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況.....	83
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について.....	84

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成30年度各がん検診事業実績

指標の解説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\text{推計対象者数} = \frac{\text{市区町村人口}}{\text{人}} - \left(\frac{\text{就業者数}}{\text{農林水産業}} - \frac{\text{従業者数}}{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃　が　ん　検　診

1. 胃がん検診実績

平成30度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は189,132人のうち、受診者数はX線検査10,415人、内視鏡検査は41,196人で合計51,611人、受診率は27.3%で前年度より0.1ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は79.8%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数26,222人、受診率34.1%で、全国平均（平成29年度）受診率3.6%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は164人発見され（X線検査15人、内視鏡検査149人）、がん発見率は0.32%であった。

X線検査でのがん発見率は0.14%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.36%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.7%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ10.6%であった。

確定調査の結果、確定癌は155例、発見癌率は0.30%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は10,415人で、受診率は5.5%である。一次検診の要精検者は895人で、要精検率は8.6%で、前年度より0.4ポイント減少した。精検受診者数795人、精検受診率は88.8%で前年度より5.2ポイント増加した。車検診の要精検率8.1%、施設検診は12.4%で（東部15.4%、中部9.8%、西部8.3%）で、許容値11.0%を上回っている。

精検結果は、胃がんであった者は15人で、胃がん発見率は0.14%であった。

X線検査における国のプロセス指標は、要精検率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検率が高い。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は41,196人で、検査結果は胃がんであった者は149人が発見され、発見率は0.36%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,401人で、組織診実施率3.4%、東部3.7%、中部4.3%、西部2.7%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は10.6%で、東部9.1%、中部11.4%、西部12.3%であった。

〈検診方法別結果〉

区分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実施	未実施			
X線検診	19	0	10,415 (20.2%)	15	0.144
内視鏡検診	19	0	41,196 (79.8%)	149	0.362
計			51,611 (100%)	164	0.318

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区分	受診者数(率)	要精査者数	要精査率(%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	9,216 (88.5%)	746	8.1	5.8	10.3	9.4
施設検診 (病院・診療所)	1,199 (11.5%)	149	12.4	15.4	9.8	8.3
計	10,415 (100%)	895	8.6	7.2	10.3	9.3

・精密検査

区分	精 檢 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	667	89.4	15	0.163	0.127	0.194	0.186
施 設 検 診	128	85.9	0	0.000	0.000	0.000	0.000
計	795	88.8	15	0.144	0.108	0.191	0.158

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診 実施者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	11,339	421	37	0.326	0.319	0.245	0.396
診 療 所	29,857	980	112	0.375	0.357	0.599	0.313
計	41,196	1,401	149	0.362	0.343	0.494	0.327

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区分	受診者数	要精査者数	要精査率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
東 部	4,632	333	7.2	294	88.3	5	0.108
中 部	2,620	269	10.3	248	92.2	5	0.191
西 部	3,163	293	9.3	253	86.3	5	0.158
計	10,415	895	8.6	795	88.8	15	0.144

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率(%)	陽性反応適中度(%)
東 部	17,207	645	3.7	59	0.343	9.1
中 部	6,888	299	4.3	34	0.494	11.4
西 部	17,101	457	2.7	56	0.327	12.3
計	41,196	1,401	3.4	149	0.362	10.6

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成30年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは155例(一次検査がX線検査：車検診14例、一次検査が内視鏡検査：141例)で、発見癌率は0.30%であった。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は126例、進行癌は29例であった。早期癌率は81.3%（東部87.9%、中部80.0%、西部74.1%）であった。
- (2) 切除例は75例、内視鏡切除が76例であった。非切除例が4例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性113例、女性42例であった。40歳代2人、50歳代5人、60歳代48人、70歳代70人、80歳以上30人で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が57.9%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」「3」で55.2%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが53.0%を占めたが、一方で5cm以上のものが13例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが8例で61.5%、内視鏡検査ではstage I Aが113例で82.5%であった。Stage IVが内視鏡検査で4例見つかっている。
- (7) 前年度受診歴を有する発見進行癌については、各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受診者数(人) B	14,303	33,564	47,867	13,801	35,404	49,205	13,642	37,828	51,470
	受診率(%) C = B/A	7.5	17.6	25.1	7.2	18.6	25.8	7.2	19.9	27.0
一次検診結果	異常認めず(人) D	13,083			12,620			12,548		
	要精検者数(人) E	1,220			1,181			1,094		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値11.0%以下	8.5			8.6			8.0		
精密検査	精検受診者数(人) G	996			985			927		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	81.6			83.4			84.7		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	27(5)	144(55)	171(60)	25(3)	153(48)	178(51)	18(1)	153(102)	171(103)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.19	0.43	0.36	0.18	0.43	0.36	0.13	0.40	0.33
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	2.2			2.1			1.6		
確定調査結果	確定がん数(人) L	29	146	175	27	154	181	18	151	169
	確定がん率(%) M = L/B	0.20	0.43	0.37	0.20	0.43	0.37	0.13	0.40	0.33

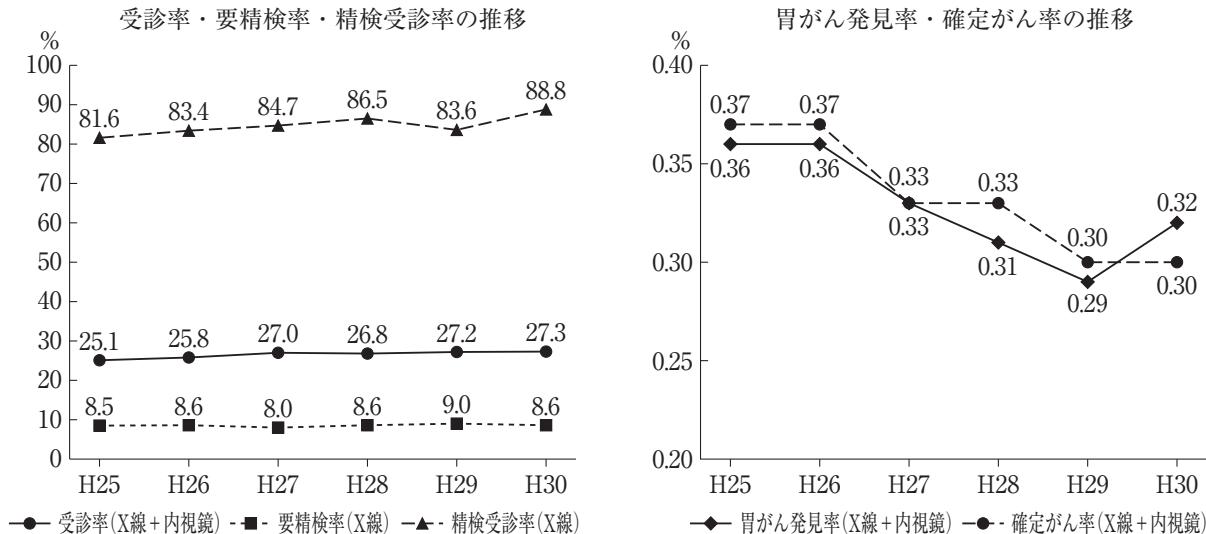
区分		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	11,961	38,684	50,645	11,029	40,453	51,482	10,415	41,196	51,611
	受診率(%) C = B/A	6.3	20.5	26.8	5.8	21.4	27.2	5.5	21.8	27.3
一次検診結果	異常認めず(人) D	10,933			10,036			9,520		
	要精検者数(人) E	1,028			993			895		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値11.0%以下	8.6			9.0			8.6		
精密検査	精検受診者数(人) G	889			830			795		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	86.5			83.6			88.8		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(6)	144(92)	159(98)	15(3)	133(85)	148(88)	15(2)	149(42)	164(44)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.13	0.37	0.31	0.14	0.33	0.29	0.14	0.36	0.32
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.5			1.5			1.7		
確定調査結果	確定がん数(人) L	18	150	168	16	138	154	14	141	155
	確定がん率(%) M = L/B	0.15	0.39	0.33	0.15	0.34	0.30	0.13	0.34	0.30

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成30年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数(人)		二次検診受診者数		受診率(%)			一次検診結果	要精検率(%)						
								要精検者数	異常認めず						
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計	
40~44歳	2,702	3,950	273	508	10.1	12.9	11.7	14	13	259	495	5.1	2.6	3.5	
45~49歳	2,391	3,400	254	432	10.6	12.7	11.8	18	19	236	413	7.1	4.4	5.4	
50~54歳	2,494	3,868	180	476	7.2	12.3	10.3	16	19	164	457	8.9	4.0	5.3	
55~59歳	3,464	5,767	252	561	7.3	9.7	8.8	18	28	234	533	7.1	5.0	5.7	
60~64歳	7,789	11,161	522	970	6.7	8.7	7.9	41	73	481	897	7.9	7.5	7.6	
65~69歳	13,314	16,514	973	1,212	7.3	7.3	7.3	113	94	860	1,118	11.6	7.8	9.5	
70~74歳	11,961	15,344	862	947	7.2	6.2	6.6	112	81	750	866	13.0	8.6	10.7	
75~79歳	11,039	16,002	511	614	4.6	3.8	4.2	69	49	442	565	13.5	8.0	10.5	
80歳以上	18,509	39,463	449	419	2.4	1.1	1.5	67	51	382	368	14.9	12.2	13.6	
計	73,663	115,469	4,276	6,139	5.8	5.3	5.5	468	427	3,808	5,712	10.9	7.0	8.6	
合計	189,132			10,415			5.5			895			9,520		
													8.6		

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年齢	精密検査受診者数		精密検査受診率(%)			精密検査結果	胃がん発見率(%)			陽性反応の中度(%)			j = h / d						
						異常認めず	その他の疾病	胃がん疑い	胃がんh										
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計				
40~44歳	12	11	85.7	84.6	85.2	6	1	6	9	0	0	0	0.000	0.197	0.128	0.0	7.7	3.7	
45~49歳	17	16	94.4	84.2	89.2	2	7	15	9	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
50~54歳	15	15	93.8	78.9	85.7	7	2	8	13	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
55~59歳	17	25	94.4	89.3	91.3	3	4	14	21	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
60~64歳	33	69	80.5	94.5	89.5	6	8	25	61	0	0	2	0	0.383	0.000	0.134	4.9	0.0	1.8
65~69歳	98	87	86.7	92.6	89.4	15	29	79	57	0	0	4	1	0.411	0.083	0.229	3.5	1.1	2.4
70~74歳	96	78	85.7	96.3	90.2	27	16	67	61	0	1	2	0	0.232	0.000	0.111	1.8	0.0	1.0
75~79歳	58	43	84.1	87.8	85.6	16	11	41	32	0	0	1	0	0.196	0.000	0.089	1.4	0.0	0.8
80歳以上	58	47	86.6	92.2	89.0	15	11	38	36	1	0	4	0	0.891	0.000	0.461	6.0	0.0	3.4
計	404	391	86.3	91.6	88.8	97	89	293	299	1	1	13	2	0.304	0.033	0.144	2.8	0.5	1.7
合計	795			88.8			186			592			2			15			
													0.144			1.7			

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

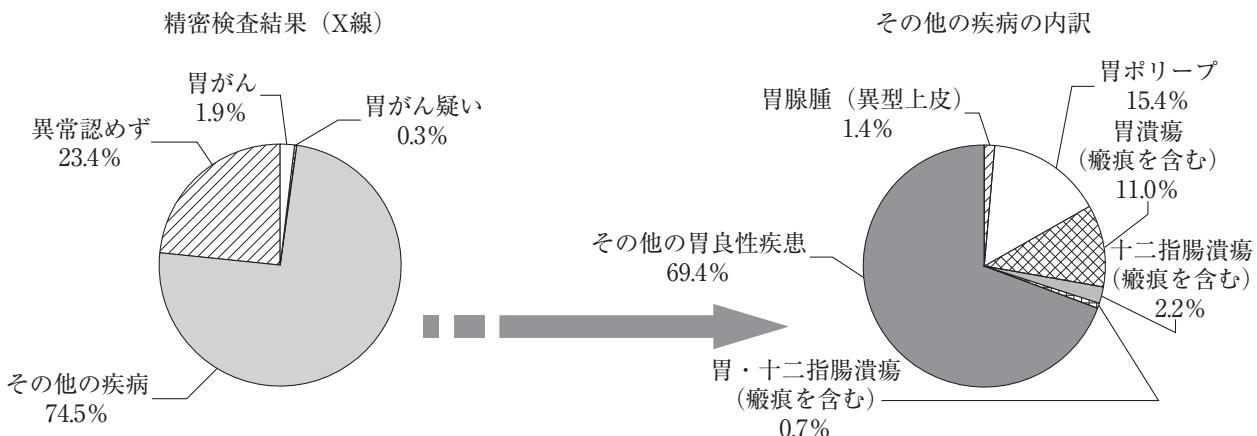
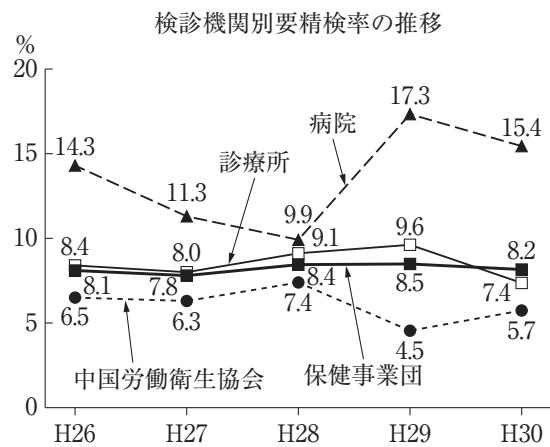
一次検診機関	一次検診受診者数		一次検診結果	要精検率(%)					
			要精検者数	異常認めず					
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	3,625	5,347	388	344	3,237	5,003	10.7	6.4	8.2
中国労働衛生協会	104	140	9	5	95	135	8.7	3.6	5.7
病院	341	410	56	60	285	350	16.4	14.6	15.4
診療所	206	242	15	18	191	224	7.3	7.4	7.4
計	4,276	6,139	468	427	3,808	5,712	10.9	7.0	8.6
合計	10,415			895			9,520		
							8.6		

b. 検診機関別

年齢	精密検査受診者数 d'			精密検査受診率 (%) $e' = d'/b'$			精密検査結果						胃がん発見率 (%) $g' = f'/a'$			陽性反応の中度 (%) $h' = f'/b'$			
	異常認めず		常めず	その他の疾病		胃がん疑い		胃がん		男			女			計			
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計			
保健事業団	336	319	86.6	92.7	89.5	80	76	243	240	1	1	12	2	0.331	0.037	0.156	3.1	0.6	1.9
中国労働衛生協会	7	5	77.8	100.0	85.7	2	0	4	5	0	0	1	0	0.962	0.000	0.410	11.1	0.0	7.1
車検診小計	343	324	164	193	89.4	82	76	247	245	1	1	13	2	0.349	0.036	0.163	3.3	0.6	2.0
病院	47	51	83.9	85.0	84.5	12	9	35	42	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
診療所	14	16	93.3	88.9	90.9	3	4	11	12	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
施設検診小計	61	67	177	174	85.9	15	13	46	54	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
計	404	391	86.3	91.6	88.8	97	89	293	299	1	1	13	2	0.304	0.033	0.144	2.8	0.5	1.7
合計	795		88.8			186		592		2		15		0.144			1.7		

・検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
保健事業団	8.1	7.8	8.4	8.5	8.2
中国労働衛生協会	6.5	6.3	7.4	4.5	5.7
車検診小計	8.0	7.7	8.4	8.4	8.1
病院	14.3	11.3	9.9	17.3	15.4
診療所	8.4	8.0	9.1	9.6	7.4
施設検診小計	11.0	9.6	9.6	13.7	12.4
合計	8.6	8.0	8.6	9.0	8.6



4) 平成30年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率(%)	陽性反応度				
	A 対象者数	B 車検診	C 施設検診	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	精 要精検率 (%) H=F+G I=H/D	受診者数 J	精 精検受診率 (%) K=J/H	検 異常認めず L	その他 疾患 M	がん N	がん疑い O	P=M+N+0	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	59,003	2,230	635	2,865	4.9	126	88	214	7.5	191	89.3	33	155	3	0	158	0.105	1.4
米子市	44,119	388	315	703	1.6	30	23	53	7.5	50	94.3	8	40	2	0	42	0.284	3.8
倉吉市	17,150	588	20	608	3.5	51	3	54	8.9	47	87.0	14	31	2	0	33	0.329	3.7
境港市	11,206	211	120	331	3.0	11	9	20	6.0	20	100.0	3	16	1	0	17	0.302	5.0
岩美町	4,582	505	8	513	11.2	28	5	33	6.4	30	90.9	3	27	0	0	27	0.000	0.0
八頭町	6,230	905	47	952	15.3	60	13	73	7.7	63	86.3	8	54	1	0	55	0.105	1.4
若桜町	1,539	119	0	119	7.7	4	0	4	3.4	3	75.0	1	2	0	0	2	0.000	0.0
智頭町	3,027	183	0	183	6.0	9	0	9	4.9	7	77.8	1	4	1	1	6	0.546	11.1
湯梨浜町	5,676	553	0	553	9.7	64	0	64	11.6	61	95.3	20	41	0	0	41	0.000	0.0
三朝町	2,574	321	0	321	12.5	31	0	31	9.7	31	100.0	11	17	3	0	20	0.935	9.7
北栄町	5,516	550	14	564	10.2	64	0	64	11.3	55	85.9	18	37	0	0	37	0.000	0.0
琴浦町	6,751	567	7	574	8.5	55	1	56	9.8	54	96.4	20	34	0	0	34	0.000	0.0
南部町	4,011	244	12	256	6.4	26	1	27	10.5	20	74.1	5	15	0	0	15	0.000	0.0
伯耆町	4,257	379	0	379	8.9	38	0	38	10.0	34	89.5	9	25	0	0	25	0.000	0.0
日吉津村	1,008	141	21	162	16.1	14	6	20	12.3	16	80.0	2	14	0	0	14	0.000	0.0
大山町	6,967	698	0	698	10.0	78	0	78	11.2	65	83.3	14	50	1	0	51	0.143	1.3
日南町	2,551	305	0	305	12.0	29	0	29	9.5	22	75.9	1	20	0	1	21	0.000	0.0
日野町	1,553	185	0	185	11.9	18	0	18	9.7	17	94.4	13	4	0	0	4	0.000	0.0
江府町	1,412	144	0	144	10.2	10	0	10	6.9	9	90.0	2	6	1	0	7	0.694	10.0
合 計	189,132	9,216	1,199	10,415	5.5	746	149	895	8.6	795	88.8	186	592	15	2	609	0.144	1.7
東 部	74,381	3,942	690	4,632	6.2	227	106	333	7.2	294	88.3	46	242	5	1	248	0.108	1.5
中 部	37,667	2,579	41	2,620	7.0	265	4	269	10.3	248	92.2	83	160	5	0	165	0.191	1.9
西 部	77,084	2,695	468	3,163	4.1	254	39	293	9.3	253	86.3	57	190	5	1	196	0.158	1.7

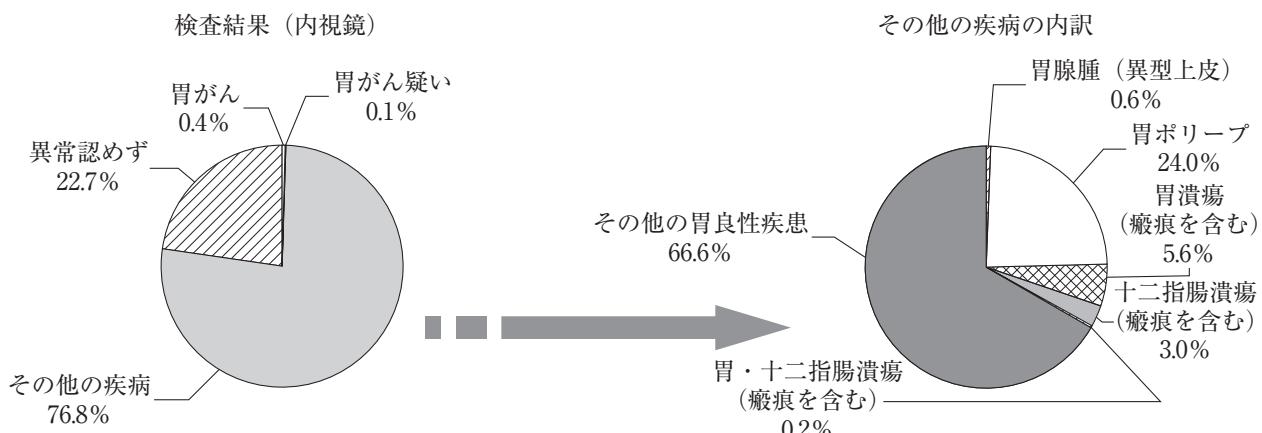
(3) 平成30年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診受診者数 a	検査結果								胃がん発見率 (%) $c = b / a$		
		異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40~44歳	542	963	229	413	312	549	1	1	0	0	0.000	0.000
45~49歳	518	995	172	377	346	617	0	0	0	1	0.000	0.101
50~54歳	572	1,178	166	371	404	806	1	0	1	1	0.175	0.085
55~59歳	685	1,621	157	426	524	1,195	0	0	4	0	0.584	0.000
60~64歳	1,699	2,768	362	653	1,331	2,104	2	3	4	8	0.235	0.289
65~69歳	3,563	4,505	647	1,035	2,885	3,460	8	2	23	8	0.646	0.178
70~74歳	3,930	4,843	698	1,090	3,201	3,744	6	2	25	7	0.636	0.145
75~79歳	2,870	3,774	531	854	2,304	2,910	5	1	30	9	1.045	0.238
80歳以上	2,539	3,631	444	740	2,068	2,880	7	3	20	8	0.788	0.220
計	16,918	24,278	3,406	5,959	13,375	18,265	30	12	107	42	0.632	0.173
合 計			41,196		9,365		31,640		42		149	
												0.362

2) 検診機関別

年 齢	一次検診受診者数 a'	検査結果								胃がん発見率 (%) $c' = b' / a'$		
		異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病院	4,905	6,434	804	1,229	4,064	5,192	10	3	27	10	0.550	0.155
診療所	12,013	17,844	2,602	4,730	9,311	13,073	20	9	80	32	0.666	0.179
計	16,918	24,278	3,406	5,959	13,375	18,265	30	12	107	42	0.632	0.173
合計			41,196		9,365		31,640		42		149	
												0.362



3) 平成30年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他の 疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん 発見率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	14,155	527	3.7	2,023	12,076	9	47	12,132	0.332	8.9
米子市	11,441	185	1.6	2,392	9,009	7	33	9,049	0.288	17.8
倉吉市	2,883	147	5.1	984	1,879	9	11	1,899	0.382	7.5
境港市	2,757	197	7.1	1,185	1,560	0	12	1,572	0.435	6.1
岩美町	580	34	5.9	55	523	0	2	525	0.345	5.9
八頭町	1,308	70	5.4	240	1,059	1	8	1,068	0.612	11.4
若桜町	505	3	0.6	59	445	0	1	446	0.198	33.3
智頭町	659	11	1.7	58	599	1	1	601	0.152	9.1
湯梨浜町	1,174	52	4.4	389	779	1	5	785	0.426	9.6
三朝町	339	0	0.0	103	236	0	0	236	0.000	0.0
北栄町	1,151	45	3.9	429	710	6	6	722	0.521	13.3
琴浦町	1,341	55	4.1	825	504	0	12	516	0.895	21.8
南部町	1,311	67	5.1	129	1,170	7	5	1,182	0.381	7.5
伯耆町	657	0	0.0	62	593	0	2	595	0.304	0.0
日吉津村	189	1	0.5	187	2	0	0	2	0.000	0.0
大山町	367	0	0.0	41	326	0	0	326	0.000	0.0
日南町	99	3	3.0	19	78	1	1	80	1.010	33.3
日野町	28	0	0.0	21	7	0	0	7	0.000	0.0
江府町	252	4	1.6	164	85	0	3	88	1.190	75.0
合計	41,196	1,401	3.4	9,365	31,640	42	149	31,831	0.362	10.6
東部	17,207	645	3.7	2,435	14,702	11	59	14,772	0.343	9.1
中部	6,888	299	4.3	2,730	4,108	16	34	4,158	0.494	11.4
西部	17,101	457	2.7	4,200	12,830	15	56	12,901	0.327	12.3

(4) 平成30年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受 診 者 数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果						がん発見率 (%) K = I / D
		X 線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	異 常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J = G + H + I		
鳥取市	59,003	2,865	14,155	17,020	28.8	2,056	12,231	9	50	12,290	0.294	
米子市	44,119	703	11,441	12,144	27.5	2,400	9,049	7	35	9,091	0.288	
倉吉市	17,150	608	2,883	3,491	20.4	998	1,910	9	13	1,932	0.372	
境港市	11,206	331	2,757	3,088	27.6	1,188	1,576	0	13	1,589	0.421	
岩美町	4,582	513	580	1,093	23.9	58	550	0	2	552	0.183	
八頭町	6,230	952	1,308	2,260	36.3	248	1,113	1	9	1,123	0.398	
若桜町	1,539	119	505	624	40.5	60	447	0	1	448	0.160	
智頭町	3,027	183	659	842	27.8	59	603	2	2	607	0.238	
湯梨浜町	5,676	553	1,174	1,727	30.4	409	820	1	5	826	0.290	
三朝町	2,574	321	339	660	25.6	114	253	0	3	256	0.455	
北栄町	5,516	564	1,151	1,715	31.1	447	747	6	6	759	0.350	
琴浦町	6,751	574	1,341	1,915	28.4	845	538	0	12	550	0.627	
南部町	4,011	256	1,311	1,567	39.1	134	1,185	7	5	1,197	0.319	
伯耆町	4,257	379	657	1,036	24.3	71	618	0	2	620	0.193	
日吉津村	1,008	162	189	351	34.8	189	16	0	0	16	0.000	
大山町	6,967	698	367	1,065	15.3	55	376	0	1	377	0.094	
日南町	2,551	305	99	404	15.8	20	98	2	1	101	0.248	
日野町	1,553	185	28	213	13.7	34	11	0	0	11	0.000	
江府町	1,412	144	252	396	28.0	166	91	0	4	95	1.010	
合 計	189,132	10,415	41,196	51,611	27.3	9,551	32,232	44	164	32,440	0.318	
東 部	74,381	4,632	17,207	21,839	29.4	2,481	14,944	12	64	15,020	0.293	
中 部	37,667	2,620	6,888	9,508	25.2	2,813	4,268	16	39	4,323	0.410	
西 部	77,084	3,163	17,101	20,264	26.3	4,257	13,020	16	61	13,097	0.301	

(5) 平成30年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
確定胃癌数 癌発見率%	6 0.130	0 0.000	60 0.349	4 0.153	0 0.000	31 0.450	4 0.126	0 0.000	50 0.292	155 0.300
	66 0.302			35 0.368			54 0.266			
早期癌数 早期癌率%	5	0	53	4	0	24	2	0	38	126 81.3
	58 87.9			28 80.0			40 74.1			
進行癌数	1	0	7	0	0	7	2	0	12	29
切除例	3	0	26	2	0	14	1	0	29	75
内視鏡切除例	3	0	33	2	0	15	2	0	21	76
非切除例	0	0	1	0	0	2	1	0	0	4

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	0	5	33	52	23	113
女	2	0	15	18	7	42

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
I	1	0	4	0	0	1	1	0	1	8 6.3%
II a	1	0	5	0	0	4	1	0	6	17 13.5%
II b	0	0	2	1	0	1	0	0	1	5 4.0%
II c	2	0	32	3	0	14	0	0	22	73 57.9%
II c + III	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1 0.8%
II b + II c	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 0.8%
II a + II c	1	0	6	0	0	2	0	0	7	16 12.7%
不明	0	0	3	0	0	1	0	0	1	5 4.0%
計	5	0	53	4	0	24	2	0	38	126

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0.0%
2	1	0	2	0	0	1	1	0	3	8 27.6%
3	0	0	1	0	0	3	1	0	3	8 27.6%
4	0	0	1	0	0	1	0	0	2	4 13.8%
5	0	0	3	0	0	0	0	0	3	6 20.7%
不明	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3 10.3%
計	1	0	7	0	0	7	2	0	12	29

表5 切除例の深達度

\	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
t1a	4	0	38	3	0	21	2	0	27	95
t1b	1	0	12	1	0	3	0	0	12	29
t2	0	0	2	0	0	1	0	0	4	7
t3	0	0	3	0	0	1	0	0	2	6
t4a	1	0	2	0	0	2	1	0	3	9
t4b	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	6	0	57	4	0	28	3	0	49	147
不 明	0	0	2	0	0	1	0	0	1	4

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	2	4	6	46%	7	0	13	0
施	0	0	0	0%	0	0	0	0
内	28	39	67	54%	44	13	124	14
計	30	43	73	53%	51	13	137	14

表7-1 早期癌の占拠部位

\	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	12
M	6	0	54
L	4	0	45
全 体	0	0	0
計	11	0	111
不 明	0	0	4

\	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	4	0	54
大 弯	2	0	19
前 壁	3	0	18
後 壁	2	0	20
全 周	0	0	0
計	11	0	111
不 明	0	0	4

表7-2 進行癌の占拠部位

\	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	6
M	1	0	12
L	0	0	5
D	0	0	1
全 体	0	0	0
計	2	0	24
不 明	1	0	2

\	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	0	0	7
大 弯	0	0	3
前 壁	1	0	1
後 壁	1	0	7
全 周	0	0	5
計	2	0	23
不 明	1	0	3

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検诊	内視鏡 检 診	車 検診	施設 検诊	内視鏡 检 診	車 検診	施設 検诊	内視鏡 检 診	車 検診	施設 検诊	内視鏡 检 診	X 線	内視鏡検診		
I A	4	0	51	4	0	23	0	0	39	8	0	113	8	61.54%	113	82.48%
I B	1	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	3	1	7.69%	3	2.19%
II A	1	0	4	0	0	1	2	0	3	3	0	8	3	23.08%	8	5.84%
II B	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0.00%	1	0.73%
III A	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0.00%	4	2.92%
III B	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	1	7.69%	2	1.46%
III C	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0.00%	2	1.46%
IV	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	4	0	0.00%	4	2.92%
計	6	0	59	4	0	28	3	0	50	13	0	137	13	100.0%	137	100.0%
不明	0	0	1	0	0	3	1	0	0	1	0	4	1		4	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成30年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数32,455人、受診率25.0%で、平成29年度に比べ受診者数は317人、受診率は0.3ポイントそれぞれ増であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数59,087人、受診者数26,470人、受診率44.8%で、全国平均（平成29年度）受診率16.1%に比較し高い。

要精検者数は549人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が45人であった。要精検率は1.69%で、平成29年度に比べ、要精検者数が218人、要精検率が0.66ポイントそれぞれ増加した。

精検受診者数430人、精検受診率78.3%で平成29年度に比べ8.8ポイント減少した。

精検の結果、がん9人、がん発見率（がん/受診者数）は0.03%で、前年度と同率であった。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は1.6%であった。上皮内病変は189人（CIN3またはAIS 50人、CIN2 24人、CIN1 114人、腺異形成1人）であった。

受診者数（率）はほぼ横ばい状態である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るもの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、がん発見率、陽性反応適中度、いずれも国の許容値に届いていない状況である。しかしながら、がん発見率の増加には反映されないものの、前がん病変であるCINの発見数は明らかに増加している。陽性反応適中度低下の主な原因是、HPV感染の推定に留まる細胞診ASC-USならびにCIN推定例の増加による要精検者数の大幅な増加（分母の増加）と考えられる。また、今年度は報告様式の変更に従い、上皮内がんを発見がんとして計上してきた平成29年度までと異なり、CIN3として集計することになったこと（分子の減少）も低下の一因と考えられる。国への問い合わせの結果、後者は全国でみられている現象であり、統計の見直しを検討しているとの情報があった。

市町村別の要精検率、精検受診率に格差があり、要精検率2%以上のところが4市町村、精検受診率では50%以下の市町村もあった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	10,879 (33.5%)	98 (96)	0.90 (0.88)	1.03	0.73	0.83
施設検診 (病院・診療所)	21,576 (66.5%)	451 (433)	2.09 (2.01)	2.45	1.58	1.99
計	32,455 (100%)	549 (529)	1.69 (1.63)	1.85	1.13	1.80

※要精検者数の（ ）は、判定不能の者のうち、再検が未実施者のを除く

(2) 精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
車検診	82	83.7	0	0.000	0.000	0.000	0.000
施設検診	348	77.2	9	0.042	0.040	0.034	0.045
計	430	78.3	9	0.028	0.023	0.016	0.037

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	5,417	56	1.03	51	91.1	29	0	0.000
中 部	3,287	24	0.73	20	83.3	6	0	0.000
西 部	2,175	18	0.83	11	61.1	5	0	0.000
計	10,879	98	0.90	82	83.7	40	0	0.000

(2) 施設検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	7,441	182	2.45	142	78.0	68	3	0.040
中 部	2,975	47	1.58	41	87.2	20	1	0.034
西 部	11,160	222	1.99	165	74.3	61	5	0.045
計	21,576	451	2.09	348	77.2	149	9	0.042

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者32,455人中、体部がん検診対象者数は1,197人、一次検診会場での受診者は964人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は157人、受診者の合計は1,121人、受診率は93.7%であった。

一次検診の結果、要精検となった者32人、要精検率3.32%、精密検査受診者数は24人で、精密検査受診率75.0%で平成29年度に比べ12.5ポイント減少した。精検の結果、子宮体部がんが4人発見され、がん発見率は0.41%であった。陽性反応適中度12.5%であった。子宮内膜増殖症は2人であった。

また、医療機関での別途受診者から、子宮内膜増殖症が1人発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成30年度は子宮頸部癌5例で、I A期2例、I B期以上が3例であった。治療対象のCIN3またはAISは45例であった。CIN1、2または腺異形成131例であった。平成29年度に比べ、子宮頸部癌が2例増、CIN3またはAISは4例減少した。なお、I B期以上3例の検診歴は、前年受診1例、3年以上前の受診2例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は4例、子宮内膜増殖症3例であった。

4. その他

1) 平成30年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成30年度実績は、妊婦健康診査受診者4,059人中、子宮頸部がん検診受診者数3,959人、受診率97.5%で、要精検者数89人、要精検率2.2%、精検受診者数78人、精検受診率87.6%で精検結果はがんが1人25～29歳で発見されている。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一次検診	対象者数(人) A	135,485	135,485	135,485	135,485	129,896	129,896	129,896
	受診者数(人) B	29,307	29,640	31,243	32,600	31,447	32,138	32,455
	受診率(%) C = B/A	21.6	21.9	23.1	24.1	24.2	24.7	25.0
一次検診結果	異常認めず(人) D	28,915	29,193	30,868	32,275	31,206	31,807	31,906
	要精検者数(人) E	392	447	375	325	241	331	549
	判定不能(人) F	28	70	15	23	19	36	45
精密検査	要精検率(%) G = E/B	1.34	1.51	1.20	1.00	0.77	1.03	1.69
	精検受診者数(人) H	252	305	292	262	185	257	430
	精検受診率(%) I = H/E	69.2	80.9	81.1	86.8	83.3	87.1	78.3
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	53(112)	25(150)	23(155)	14(146)	9(90)	10(130)	9(189)
	子宮がん発見率(%) K = J/B	0.18	0.08	0.07	0.04	0.03	0.03	0.03
	陽性反応適中度(%) L = J/E	14.6	6.6	6.4	4.6	4.1	3.4	1.6
確定調査結果	確定がん数(人) M	52	25	15	14	9	3	5
	確定がん率(%) N = M/B	0.18	0.08	0.05	0.04	0.03	0.01	0.02

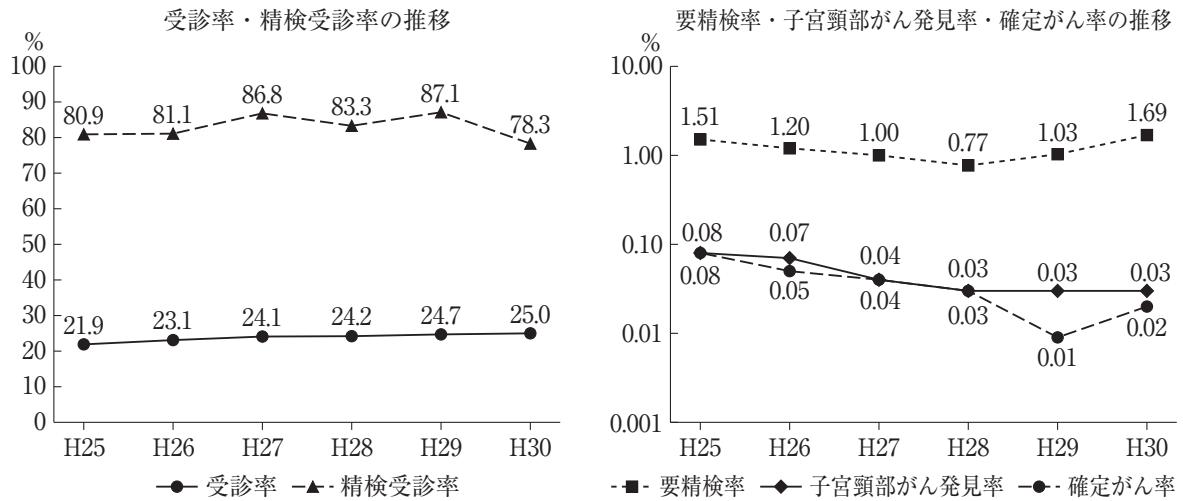
*1 精密検査結果欄の()内の数値は、平成29年度までは異形成の者、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上

*2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

*3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

*4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上

*5 要精検者数について、平成24年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検も判定不能だった者も含んだ数を計上



(2) 平成30年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20~24歳	3,705	559	15.1	164	16	0	543	2.86
25~29歳	2,963	1,248	42.1	632	52	0	1,196	4.17
30~34歳	3,735	2,186	58.5	1,327	85	2	2,101	3.89
35~39歳	4,024	2,714	67.4	1,947	71	1	2,643	2.62
40~44歳	3,950	3,363	85.1	2,481	81	1	3,282	2.41
45~49歳	3,400	2,969	87.3	2,313	77	3	2,892	2.59
50~54歳	3,868	2,815	72.8	2,213	52	8	2,763	1.85
55~59歳	5,767	2,882	50.0	2,353	38	5	2,844	1.32
60~64歳	11,161	3,623	32.5	2,999	26	9	3,597	0.72
65~69歳	16,514	4,111	24.9	3,600	20	7	4,091	0.49
70~74歳	15,344	3,322	21.7	2,999	13	4	3,309	0.39
75~79歳	16,002	1,776	11.1	1,631	13	3	1,763	0.73
80歳以上	39,463	887	2.2	791	5	2	882	0.56
計	129,896	32,455	25.0	25,450	549	45	31,906	1.69

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精密検査結果											子宮がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応適中度 (%) k = h/d
			異常認めず	子宮がん h	うち微小 浸潤がん	上皮内病変			その他			未受診	未把握		
			CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患							
20～24歳	14	87.5	6	0	0	0	5	0	1	2	0	1	0.000	0.0	
25～29歳	47	90.4	14	0	0	2	3	19	0	0	9	3	0.000	0.0	
30～34歳	72	84.7	19	1	0	8	3	25	0	1	15	5	0.046	1.2	
35～39歳	60	84.5	13	2	1	14	6	17	0	0	8	5	0.074	2.8	
40～44歳	63	77.8	20	0	0	9	4	16	1	2	11	5	0.000	0.0	
45～49歳	64	83.1	19	2	0	8	5	16	0	0	14	5	0.067	2.6	
50～54歳	36	69.2	13	1	0	0	0	11	0	0	11	7	0.036	1.9	
55～59歳	25	65.8	10	2	0	3	1	2	0	2	5	3	0.069	5.3	
60～64歳	19	73.1	7	0	0	3	0	1	0	2	6	1	0.000	0.0	
65～69歳	9	45.0	3	0	0	2	0	0	0	0	4	3	0.000	0.0	
70～74歳	8	61.5	1	1	0	0	1	1	0	1	3	1	0.030	7.7	
75～79歳	11	84.6	5	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0.000	0.0	
80歳以上	2	40.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.000	0.0	
計	430	78.3	130	9	1	50	24	114	1	10	92	38	0.028	1.6	

3) 検診機関別

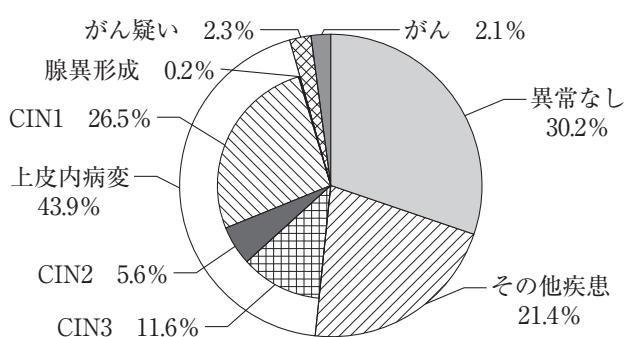
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	要精検者数 b'	一次検診結果				異常認めず	要精検率 (%) c' = b'/a'
			判定不能					
保健事業団	10,740	95	0				10,645	0.88
中国労働衛生協会	139	3	0				136	2.16
病院	7,313	99	24				7,214	1.35
診療所	14,263	352	21				13,911	2.47
計	32,455	549	45				31,906	1.69

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果											子宮がん発見率 (%) g' = f'/a'	陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'
			異常認めず	子宮がん h'	うち微小 浸潤がん	上皮内病変			その他			未受診	未把握		
			CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患							
保健事業団	79	83.2	21	0	0	12	2	22	1	1	20	7	7	0.000	0.0
中国労働衛生協会	3	100.0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
病院	65	65.7	28	2	0	0	3	9	0	5	18	9	11	0.027	2.0
診療所	283	80.4	81	7	1	36	18	83	0	4	54	22	34	0.049	2.0
計	430	78.3	130	9	1	50	24	114	1	10	92	38	52	0.028	1.6

精密検査結果（受診者数=430人）



4) 平成30年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	対象者数	受診者数						要精検者数						精密検査結果別人員					
		A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N = O + P	O	P	Q = M + N	R = O/D
鳥取市	41,588	3,338	6,568	9,906	23.8	44	160	204	2.06	168	82.4	47	32	89	3	86	121	0.030	1.5
米子市	32,218	80	7,618	7,698	23.9	0	151	151	1.96	113	74.8	33	28	52	4	48	80	0.052	2.6
倉吉市	11,532	601	1,608	2,209	19.2	5	27	32	1.45	27	84.4	10	2	15	1	14	17	0.045	3.1
境港市	7,734	380	1,572	1,952	25.2	7	28	35	1.79	29	82.9	8	11	10	1	9	21	0.051	2.9
岩美町	2,911	596	192	788	27.1	4	5	9	1.14	7	77.8	2	1	4	0	4	5	0.000	0.0
八頭町	3,960	1,014	311	1,325	33.5	6	9	15	1.13	11	73.3	0	0	5	0	5	5	0.000	0.0
若桜町	941	243	52	295	31.3	1	2	3	1.02	2	66.7	2	3	0	0	0	3	0.000	0.0
智頭町	1,916	226	318	544	28.4	1	6	7	1.29	5	71.4	0	6	2	0	2	8	0.000	0.0
湯梨浜町	3,660	668	492	1,160	31.7	4	4	8	0.69	8	100.0	5	8	2	0	2	10	0.000	0.0
三朝町	1,636	325	126	451	27.6	8	6	14	3.10	12	85.7	4	1	0	0	0	1	0.000	0.0
北栄町	3,548	773	419	1,192	33.6	1	6	7	0.59	6	85.7	1	1	5	0	5	6	0.000	0.0
琴浦町	4,321	920	330	1,250	28.9	6	4	10	0.80	8	80.0	2	0	5	0	5	5	0.000	0.0
南部町	2,585	282	528	810	31.3	3	11	14	1.73	6	42.9	2	0	2	0	2	2	0.000	0.0
伯耆町	2,771	364	324	688	24.8	1	6	7	1.02	6	85.7	6	4	0	0	0	4	0.000	0.0
日吉津村	724	52	261	313	43.2	1	6	7	2.24	5	71.4	1	2	4	0	4	6	0.000	0.0
大山町	4,395	570	439	1,009	23.0	3	6	9	0.89	6	66.7	0	0	2	0	2	2	0.000	0.0
日南町	1,567	245	63	308	19.7	1	0	1	0.32	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	989	202	9	211	21.3	2	0	2	0.95	2	100.0	0	1	1	0	1	2	0.000	0.0
江府町	900	0	346	346	38.4	0	14	14	4.05	9	64.3	7	2	0	0	0	2	0.000	0.0
合 計	129,896	10,879	21,576	32,455	25.0	98	451	549	1.69	430	78.3	130	102	198	9	189	300	0.028	1.6
東 部	51,316	5,417	7,441	12,858	25.1	56	182	238	1.85	193	81.1	51	42	100	3	97	142	0.023	1.3
中 部	24,697	3,287	2,975	6,262	25.4	24	47	71	1.13	61	85.9	22	12	27	1	26	39	0.016	1.4
西 部	53,883	2,175	11,160	13,335	24.7	18	222	240	1.80	176	73.3	57	48	71	5	66	119	0.037	2.1

※1 平成30年度から上皮内病変には「CIN3又はAISであった者」「CIN2であった者」及び「腺異形成であった者」の合計を計上

※2 平成30年度から「その他疾患等」には「子宮頸がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんおおよびCIN 異形成等）以外の疾患であった者（転移性の子宮頸がんを含む）」を計上

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計
一次検診	対象者数(人) A	559		559	823		823	896		896
	受診者数(人) B	443	84	527	709	78	787	806	15	821
	受診率(%) C = B / A	79.2		94.3	86.1		95.6	90.0		91.6
一次検診結果	異常認めず(人) D	435			697			782		
	要精検者数(人) E	6			9			23		
	判定不能(人) F	2			3			1		
	要精検率(%) G = E / B	1.35			1.27			2.85		
精密検査	精検受診者数(人) H	4			8			19		
	精検受診率(%) I = H / E	66.7			88.9			82.6		
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	1(2)	0(1)	1(3)	3(3)	0(0)	3(3)	6(2)	2(4)	8(6)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.23	0.00	0.19	0.42	0.00	0.38	0.74	13.33	0.97
	陽性反応適中度(%) L = J / E	16.67			33.33			26.09		
確定調査結果	確定がん数(人) M	1	0	1	0	3	3	6	2	8
	確定がん率(%) N = M / B			0.19			0.38			0.97
区分		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計
一次検診	対象者数(人) A	823		823	1,057		1,057	1,197		1,197
	受診者数(人) B	748	7	755	874	21	895	964	157	1,121
	受診率(%) C = B / A	90.9		91.7	82.7		84.7	80.5		93.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	726			845			919		
	要精検者数(人) E	16			16			32		
	判定不能(人) F	6			13			13		
	要精検率(%) G = E / B	2.14			1.83			3.32		
精密検査	精検受診者数(人) H	9			14			24		
	精検受診率(%) I = H / E	56.3			87.5			75.0		
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	1(1)	0(2)	1(3)	3(1)	3(0)	6(1)	4(2)	0(1)	4(3)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.13	0.00	0.13	0.34	14.29	0.67	0.41	0.00	0.36
	陽性反応適中度(%) L = J / E	6.25			18.75			12.50		
確定調査結果	確定がん数(人) M	0	0	0	3	3	6	4	0	4
	確定がん率(%) N = M / B			0.00			0.67			0.36

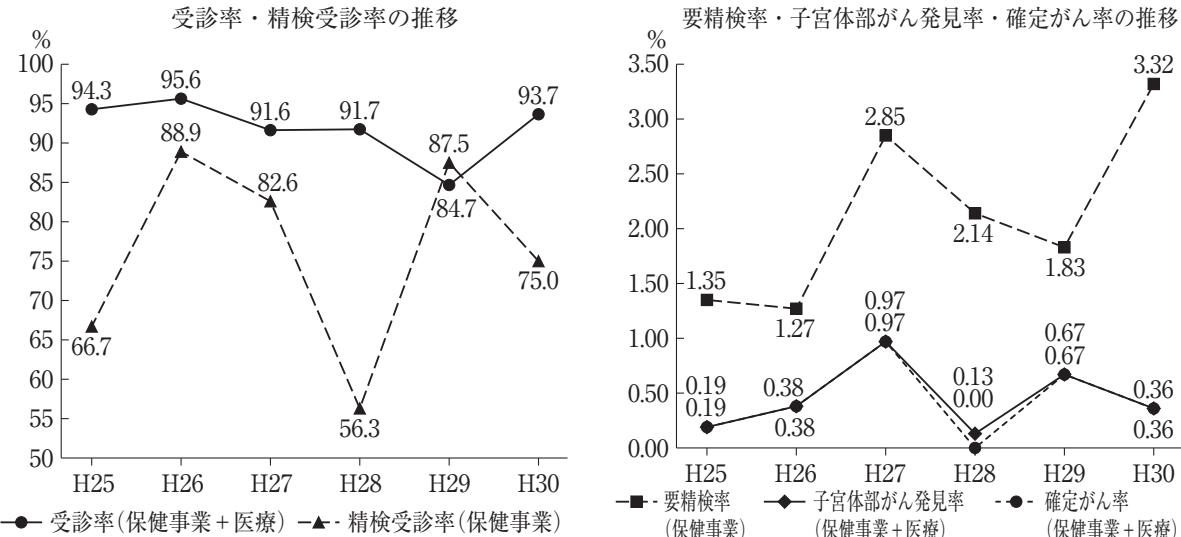
※1 「保健事業分」 = 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」 = 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者

※2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上

※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

※4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成30年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検 診受診者数 a	体部がん検 診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検 診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20~24歳	559	7	1.25	3	42.9	0	0	3	0.00
25~29歳	1,248	21	1.68	12	57.1	0	0	12	0.00
30~34歳	2,186	64	2.93	48	75.0	1	0	47	2.08
35~39歳	2,714	90	3.32	74	82.2	0	1	73	0.00
40~44歳	3,363	182	5.41	145	79.7	0	1	144	0.00
45~49歳	2,969	191	6.43	160	83.8	5	0	155	3.13
50~54歳	2,815	238	8.45	193	81.1	7	2	184	3.63
55~59歳	2,882	124	4.30	100	80.6	3	2	95	3.00
60~64歳	3,623	81	2.24	62	76.5	7	0	55	11.29
65~69歳	4,111	85	2.07	79	92.9	4	1	74	5.06
70~74歳	3,322	72	2.17	55	76.4	4	1	50	7.27
75~79歳	1,776	32	1.80	23	71.9	0	2	21	0.00
80歳以上	887	10	1.13	10	100.0	1	3	6	10.00
計	32,455	1,197	3.69	964	80.5	32	13	919	3.32

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精 密 檸 査 結 果				子宮がん 発見率 (%) k = j / d	陽性反応 適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮がん j		
20 ~ 24 歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25 ~ 29 歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30 ~ 34 歳	1	100.0	0	0	1	0	0.00	0.0
35 ~ 39 歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40 ~ 44 歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45 ~ 49 歳	5	100.0	1	2	1	1	0.63	20.0
50 ~ 54 歳	4	57.1	4	0	0	0	0.00	0.0
55 ~ 59 歳	3	100.0	0	2	0	1	1.00	33.3
60 ~ 64 歳	6	85.7	2	3	0	1	1.61	14.3
65 ~ 69 歳	3	75.0	1	1	0	1	1.27	25.0
70 ~ 74 歳	1	25.0	1	0	0	0	0.00	0.0
75 ~ 79 歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80 歳 以 上	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
計	24	75.0	9	9	2	4	0.41	12.5

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 受診者数	精 密 檸 査 結 果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20~24歳	1	1	0	0	0	0.00
25~29歳	2	2	0	0	0	0.00
30~34歳	8	8	0	0	0	0.00
35~39歳	11	10	1	0	0	0.00
40~44歳	25	25	0	0	0	0.00
45~49歳	29	29	0	0	0	0.00
50~54歳	33	30	2	1	0	0.00
55~59歳	16	15	1	0	0	0.00
60~64歳	13	12	1	0	0	0.00
65~69歳	3	3	0	0	0	0.00
70~74歳	13	13	0	0	0	0.00
75~79歳	3	3	0	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0.00
計	157	151	5	1	0	0.00

4) 平成30年度子宮体部がん検診受診状況（保健事業分）

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率(%)	陽性反応適中度(%)				
		車検診A	施設検診B	車検診C	受診率(%)E = D/A	車検診F	施設検診G	車検診H = F + G	受診率(%)I = H/D	要精検率(%)J = H/C	精検受診者数K = J/H	異常認めずL	その他Mの疾病N = O + P	がん内膜増殖症P	子宮内膜増殖症Q = M + N	R = O/D	S = O/H		
鳥取市	363	0	202	202	55.6	0	3	3	1.49	3	100.0	2	1	0	0	1	0.00	0.0	
米子市	341	0	341	341	100.0	0	9	9	2.64	8	88.9	4	2	2	1	1	0.29	11.1	
倉吉市	146	0	137	137	93.8	0	2	2	1.46	2	100.0	1	1	0	0	1	0.00	0.0	
境港市	64	0	64	64	100.0	0	2	2	3.13	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
岩美町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
八頭町	46	0	28	28	60.9	0	2	2	7.14	2	100.0	0	0	2	1	1	2	3.57	50.0
若桜町	2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
智頭町	13	0	7	7	53.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
湯梨浜町	33	0	33	33	100.0	0	3	3	9.09	3	100.0	1	2	0	0	2	0.00	0.0	
三朝町	5	0	5	5	100.0	0	1	1	20.00	1	100.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0	
北栄町	31	0	29	29	93.5	0	1	1	3.45	1	100.0	0	0	1	1	1	3.45	100.0	
琴浦町	25	0	21	21	84.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
南部町	20	0	20	20	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
伯耆町	22	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
日吉津村	12	0	12	12	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
大山町	31	0	27	27	87.1	0	2	2	7.41	2	100.0	0	2	0	0	2	0.00	0.0	
日南町	2	0	2	2	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
日野町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
江府町	41	0	36	36	87.8	0	7	7	19.44	2	28.6	1	0	1	1	1	2.78	14.3	
合計	1,197	0	964	964	80.5	0	32	32	3.32	24	75.0	9	9	6	4	2	15	0.41	12.5
東部	424	0	237	237	55.9	0	5	5	2.11	5	100.0	2	1	2	1	3	0.42	20.0	
中部	240	0	225	225	93.8	0	7	7	3.11	7	100.0	2	4	1	1	0	5	0.44	14.3
西部	533	0	502	502	94.2	0	20	20	3.98	12	60.0	5	4	3	2	1	7	0.40	10.0

(5) 平成30年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最 終 診 斷	車 檢 診		施 設 檢 診	
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
CIN1、2または腺異形成	10	21	82	110
CIN3 ま た は AIS	7	10	42	35
頸 癌 I A 期	0	0	0	2
頸 癌 I B 期 以 上	1	0	2	3
合 計	18	31	126	150

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最 終 診 斷	平成29年度	平成30年度
内 膜 増 殖 症	1	3
体 癌 I A 期	6	3
体 癌 I B 期 以 上	0	1
合 計	7	7

表3 発見子宮がん症例（I B期以上）のがん検診受診歴

受 診 歴	車 檢 診	施 設 檢 診	計
前 年 受 診	0	1	1
2 年 間 隔	0	0	0
3 年 以 上 の 間 隔	0	2	2
初 回 受 診	0	0	0

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期 以 上	計
鳥取大学医学部附属病院	10	2	1	13
鳥取県立中央病院	24	0	0	24
鳥取県立厚生病院	3	0	2	5
鳥取赤十字病院	1	0	0	1
鳥取市立病院	1	0	0	1
鳥取産院	1	0	0	1
山陰労災病院	1	0	0	1
博愛病院	1	0	0	1
彦名クリニック	1	0	0	1
脇田産婦人科医院	2	0	0	2
計	45	2	3	50

3. 肺がん検診

1. 肺がん検診実績

平成30年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数55,050人、受診率29.1%で前年度より0.1ポイント増であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数25,673人、受診率33.4%で、全国平均（平成29年度）7.4%に比べ高い。

このうち要精検者は2,023人、要精検率3.67%で前年度より114人（0.18ポイント）増加した。精密検査受診者は1,839人、精検受診率90.9%で前年度よりそれぞれ130人、1.4ポイント増であった。

要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下を上回り、前年度より増加した。精検受診率は国の目標値90%を上回り、原発性肺がん31人、肺がん疑い115人の計146人が発見された。肺がん発見率は0.06%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率で、前年度より4人（0.01ポイント）増加した。また、陽性反応的中度は1.5%であり、国の指標（許容値）1.3%を上回り、前年度より0.1ポイント増加した。平成30年度の結果からは、鳥取県は肺がんの罹患率が高く、要精検率が高いものの、引き続き多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられる。

施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診4.10%、車検診3.16%であり、施設検診の方が0.94ポイント高い傾向にあった。要精検率については地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

X線受診者総数55,050人のうち経年受診者は40,666人、経年受診率73.9%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,026人（12.8%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,162人で、X線検査受診者の3.9%、要精検者は7人で、うちがんが2人発見され、がん発見率0.093%であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者ががん発見率の比較では、経年受診者ががん発見率は0.039%で、非経年受診者ががん発見率0.104%で、非経年受診者の方が2.65倍高かった。また、高危険群所属者7,026人のうちがんが4人発見され、がん発見率0.057%、非高危険群所属者48,024人のうちがんが27人発見され、がん発見率0.056%で、高危険群所属者の方が1.01倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車 檢 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	25,075 (45.5%)	793	3.16	2.53	2.78	3.92
施 設 檢 診 (病院・診療所)	29,975 (54.5%)	1,230	4.10	3.45	5.37	4.89
計	55,050 (100%)	2,023	3.67	3.17	3.69	4.36

(2) 精密検査

区分	精 檢 受診者数	精 檢 受診率 (%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 檢 診	702	88.5	13	0.052	0.052	0.082	0.030
施 設 檢 診	1,137	92.4	18	0.060	0.057	0.076	0.060
計	1,839	90.9	31	0.056	0.055	0.080	0.043

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東 部	7,701	195	2.53	176	90.3	12	4	0.052
中 部	7,292	203	2.78	173	85.2	19	6	0.082
西 部	10,082	395	3.92	353	89.4	30	3	0.030
計	25,075	793	3.16	702	88.5	61	13	0.052

(2) 施設検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東 部	17,660	609	3.45	577	94.7	46	10	0.057
中 部	3,930	211	5.37	190	90.0	4	3	0.076
西 部	8,385	410	4.89	370	90.2	4	5	0.060
計	29,975	1,230	4.10	1,137	92.4	54	18	0.060

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者 = 昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体(X線受診者数)			経年受診者数(率)		
	男	女	計	男	女	計
H28	21,871	32,808	54,679	15,547 (71.1%)	23,690 (72.2%)	39,237 (71.8%)
H29	21,943	32,833	54,776	16,254 (74.1%)	24,260 (73.9%)	40,514 (74.0%)
H30	22,197	32,853	55,050	16,343 (73.6%)	24,323 (74.0%)	40,666 (73.9%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年／経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H28	39,237	16	0.041	15,442	21	0.136	3.33
H29	40,514	6	0.015	14,262	21	0.147	9.94
H30	40,666	16	0.039	14,384	15	0.104	2.65

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全 体 (X線受診者数)			高危険群所属者数 (率)			発見率倍率 (高危険／非高危険)
	男	女	計	男	女	計	
H28	21,871	32,808	54,679	6,941 (31.7%)	320 (1.0%)	7,261 (13.3%)	
H29	21,943	32,833	54,776	6,615 (30.1%)	329 (1.0%)	6,944 (12.7%)	
H30	22,197	32,853	55,050	6,664 (30.0%)	362 (1.1%)	7,026 (12.8%)	

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険／非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H28	7,261	10	0.138	47,418	27	0.057	2.42
H29	6,944	14	0.202	47,832	13	0.027	7.42
H30	7,026	4	0.057	48,024	27	0.056	1.01

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
H28	7,261	2,381	2	0.08	2	0	0.000
H29	6,944	2,343	0	0.00	0	0	0.000
H30	7,026	2,162	7	0.32	7	2	0.093

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数 (人)

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H28	37	37	0	0
H29	27	27	0	0
H30	31	29	1	1

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年から平成30年までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,563例、内訳は原発性肺癌1,412例、転移性肺腫瘍151例であった。

平成30年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺がん49例、転移性肺腫瘍3例、合計52例の肺がん確定診断を得た。最終報告で115名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により原発性肺がんが19名（転移性肺腫瘍は0名）発見され、肺がん疑いのままが50名、良性が10名、異常なし32名、不明1名、現在なお調査中が3名という結果であった。なお、初回の精密検査で原発性肺がんと診断された1例が術後病理で大腸癌の転移性肺腫瘍と判明した。肺がん疑いと調査中の53名は今後2年間フォローを続ける予定である。
- (2) 発見された原発性肺がんのうち46例（93.9%）が胸部X線のみで発見され、2例（4.1%）が喀痰細胞診のみで発見された。また、1例（2.0%）は胸部X線および喀痰細胞診いずれも陽性（E1+E）で、非経年受診（初回）であった。cT4N0M1c, Stage IVBで、検診受診後約5ヶ月で肺がん死した。
- (3) 原発性肺がんの平均年齢は72.6歳、女性肺がんは27例（55.1%）、臨床病期はI期31例（63.3%）、腺癌は35例（71.4%）と例年どおりI期の肺腺癌の割合が多かった。
- (4) 手術症例の割合は32例（65.3%）、術後病期I期の肺がんは24例（75.0%）であり、術後病期0期（Tis）が1例（3.1%）あった。腺癌が26例（81.3%）であった。
- (5) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均21.6mm（-10.6mm）と昨年より著明に小さくなった。しかしながら、第7版に準じた腫瘍径は32.1mm（-0.1mm）とほとんど変わらなかった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一次検診	対象者数(人) A	190,556	190,556	190,556	189,132	189,132	189,132
	受診者数(人) B	50,569	53,208	55,045	54,679	54,776	55,050
	受診率(%) C = B / A	26.5	27.9	28.9	28.9	29.0	29.1
一次検診結果	異常認めず(人) D	48,225	50,905	52,953	52,815	52,867	53,032
	要精検者数(人) E	2,345	2,303	2,092	1,864	1,909	2,023
	要精検率(%) F = E / B 指標：許容値3.0%以下	4.64	4.33	3.80	3.41	3.49	3.67
精密検査	精密受診者数(人) G	2,062	2,021	1,877	1,680	1,709	1,839
	精密受診率(%) H = G / E 指標：目標値90%以上	87.9	87.8	89.7	90.1	89.5	90.9
精密検査結果	肺がんの者(人) I	45(68)	55(74)	34(78)	40(52)	28(94)	31(115)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	41	46	33	37	27	31
	肺がん発見率(%) K = J / B 指標：許容値0.03%以上	0.08	0.09	0.06	0.07	0.05	0.06
確定調査結果	陽性反応適中度(%) L = J / E 指標：許容値1.3%以上	1.7	2.0	1.6	2.0	1.4	1.5
	確定がん数(人) M	62	81	48	50	53	52
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	58	74	47	46	50	49
	確定がん率(%) O = N / B	0.12	0.15	0.09	0.09	0.10	0.09

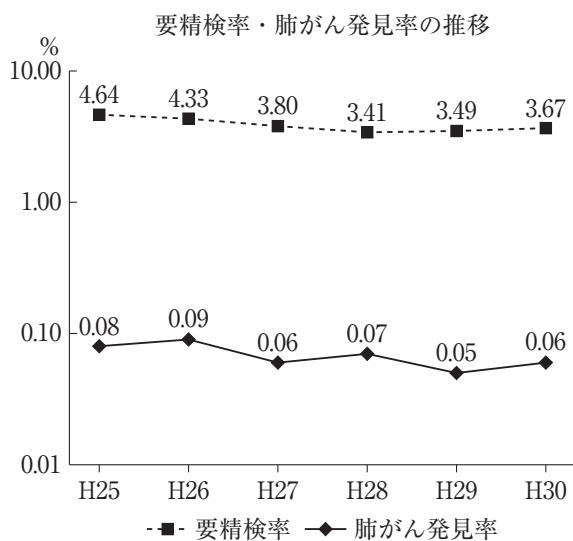
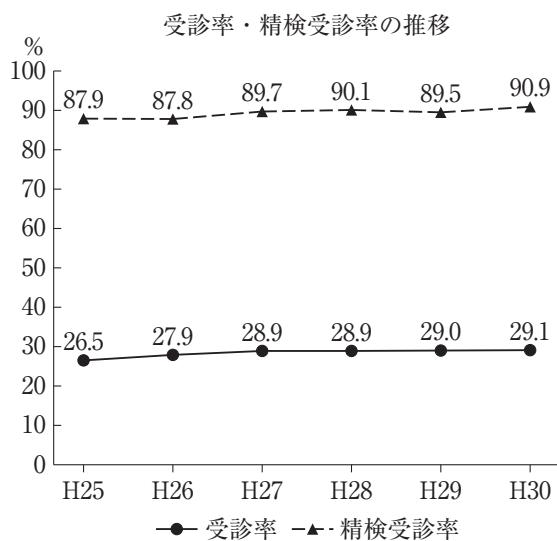
* 1 精密検査結果中の（ ）内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上

* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

* 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出

* 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上

* 5 要精検者数(E)、精密受診者数(G)、肺がんの者(I)、確定がん数(L)については、E判定者数を計上



(2) 平成30年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸部エックス線検査									エックス線フィルム読影結果					
			一次検診受診者数		受診率 (%)			経年受診者数再掲※		経年受診者割合		要精検者数			要精検率 (%)		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
40~44歳	2,702	3,950	722	1,349	26.7	34.2	31.1	271	530	37.5	39.3	13	20	1.80	1.48	1.59	
45~49歳	2,391	3,400	679	1,212	28.4	35.6	32.7	393	671	57.9	55.4	16	19	2.36	1.57	1.85	
50~54歳	2,494	3,868	613	1,283	24.6	33.2	29.8	368	759	60.0	59.2	22	23	3.59	1.79	2.37	
55~59歳	3,464	5,767	765	1,830	22.1	31.7	28.1	475	1,158	62.1	63.3	24	27	3.14	1.48	1.97	
60~64歳	7,789	11,161	2,090	3,706	26.8	33.2	30.6	1,326	2,560	63.4	69.1	84	119	4.02	3.21	3.50	
65~69歳	13,314	16,514	4,867	6,557	36.6	39.7	38.3	3,550	5,052	72.9	77.0	187	208	3.84	3.17	3.46	
70~74歳	11,961	15,344	5,211	6,692	43.6	43.6	43.6	4,121	5,417	79.1	80.9	247	210	4.74	3.14	3.84	
75~79歳	11,039	16,002	3,607	4,982	32.7	31.1	31.8	2,946	4,030	81.7	80.9	152	190	4.21	3.81	3.98	
80歳以上	18,509	39,463	3,643	5,242	19.7	13.3	15.3	2,893	4,146	79.4	79.1	200	257	5.49	4.90	5.14	
計	73,663	115,469	22,197	32,853	30.1	28.5	29.1	16,343	24,323	73.6	74.0	945	1,073	4.26	3.27	3.67	
合計	189,132		55,050		29.1			40,666			73.9			2,018			3.67

※経年受診者 = 昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 咳痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中高危険群所属者※	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とともに要精検	一次検診総合結果						
				要精検者数	精検不要			要精検率 (%)	要精検者数						要精検率 (%)		
	h	i	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40~44歳	0	0	1	2	0	0	1	2	0.00	0.00	0	0	13	20	1.80	1.48	1.59
45~49歳	0	0	6	2	0	0	6	2	0.00	0.00	0	0	16	19	2.36	1.57	1.85
50~54歳	138	24	41	6	0	0	41	6	0.00	0.00	0	0	22	23	3.59	1.79	2.37
55~59歳	232	30	76	8	0	0	76	8	0.00	0.00	0	0	24	27	3.14	1.48	1.97
60~64歳	738	68	233	13	2	1	231	12	0.86	7.69	1	0	85	120	4.07	3.24	3.54
65~69歳	1,807	84	611	18	1	0	610	18	0.16	0.00	0	0	188	208	3.86	3.17	3.47
70~74歳	1,922	86	576	31	0	0	576	31	0.00	0.00	0	0	247	210	4.74	3.14	3.84
75~79歳	1,008	39	299	14	1	1	298	13	0.33	7.14	0	0	153	191	4.24	3.83	4.01
80歳以上	819	31	216	9	1	0	215	9	0.46	0.00	1	0	200	257	5.49	4.90	5.14
計	6,664	362	2,059	103	5	2	2,054	101	0.24	1.94	2	0	948	1,075	4.27	3.27	3.67
合 計	7,026		2,162		7		2,155		0.32		2		2,023		3.67		

※高危険群所属者 = 肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの

年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査受診者数		精密検査受診率 (%)		精密検査結果						肺がん発見率(%)		陽性反応適中度 (%)					
							異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	n	o	p = o / n		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
40~44歳	13	20	10	17	76.9	85.0	81.8	8	9	2	7	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0	
45~49歳	16	19	14	18	87.5	94.7	91.4	8	10	5	8	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0	
50~54歳	22	23	21	22	95.5	95.7	95.6	15	9	5	10	1	3	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0	
55~59歳	24	27	22	27	91.7	100.0	96.1	11	10	10	16	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0 0.0 0.0	
60~64歳	85	120	77	112	90.6	93.3	92.2	38	43	33	61	4	7	2	1	0.096	0.027	0.052	2.4 0.8 1.5	
65~69歳	188	208	164	192	87.2	92.3	89.9	56	75	94	100	12	13	2	4	0.041	0.061	0.053	1.1 1.9 1.5	
70~74歳	247	210	231	200	93.5	95.2	94.3	85	66	121	118	17	12	8	4	0.154	0.060	0.101	3.2 1.9 2.6	
75~79歳	153	191	137	181	89.5	94.8	92.4	51	73	77	93	9	11	0	4	0.000	0.080	0.047	0.0 2.1 1.2	
80歳以上	200	257	168	226	84.0	87.9	86.2	54	89	104	119	9	13	1	5	0.027	0.095	0.068	0.5 1.9 1.3	
計	948	1,075	844	995	89.0	92.6	90.9	326	384	451	532	54	61	13	18	0.059	0.055	0.056	1.4 1.7 1.5	
合計	2,023		1,839		90.9		710		983		115		31		0.056		1.5			
X線のみ要精検	2,016		1,832		90.9		708		983		112		29		1.4					
喀痰のみ要精検	5		5		100.0		2		0		2		1							
X線+喀痰要精検	2		2		100.0		0		0		1		1							

3) 検診機関別

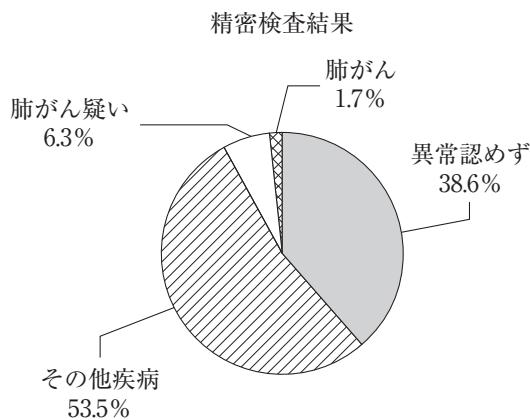
a. 一次検診結果

一次検診機関	胸部エックス線検査						エックス線フィルム読影結果						X線検査受診者中高危険群所屬者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率 (%) c' = b' / a'					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	
保健事業団	9,163	15,118	6,891	11,450	325	420	8,838	14,698	3.55	2.78	3.07	2,692	128	
中国労働衛生協会	303	491	243	377	20	25	283	466	6.60	5.09	5.67	33	2	
病院	4,243	5,576	3,155	4,008	201	184	4,042	5,392	4.74	3.30	3.92	1,236	67	
診療所	8,488	11,668	6,054	8,488	399	444	8,089	11,224	4.70	3.81	4.18	2,703	165	
計	22,197	32,853	16,343	24,323	945	1,073	21,252	31,780	4.26	3.27	3.67	6,664	362	
合計	55,050		40,666		2,018		53,032		3.67		7,026			

一次検診機関	喀痰容器提出者数 d'	喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とともに要精検(C) g'	一次検診総合結果						
		要精検者数 e'		精検不要		要精検率 (%) $f' = e' / d'$			要精検者数 h' = b' + e' - g'		要精検率 (%) $I' = h' / a'$				
		男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	計		
保健事業団	593	41	3	2	590	39	0.51	4.88	2	0	326	422	3.56	2.79	3.08
中国労働衛生協会	21	0	0	0	21	0	0	0	0	0	20	25	6.60	5.09	5.67
病院	509	20	0	0	509	20	0	0	0	0	201	184	4.74	3.30	3.92
診療所	936	42	2	0	934	42	0.21	0	0	0	401	444	4.72	3.81	4.19
計	2,059	103	5	2	2,054	101	0.24	1.94	2	0	948	1,075	4.27	3.27	3.67
合計		2,162		7		2,155		0.32		2		2,023		3.67	

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 j'	精密検査受診率 (%) $k' = j' / h'$			精密検査結果						肺がん発見率 (%) $m' = l' / a'$			陽性反応適中度 (%) $n' = l' / h'$					
					異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'		男		女		計	男	女
		男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	
保健事業団	271	388	83.1	91.9	88.1	94	141	147	209	24	32	6	6	0.065	0.040	0.049	1.8	1.4	1.6
中国労働衛生協会	20	23	100.0	92.0	95.6	9	6	7	15	3	2	1	0	0.330	0.000	0.126	5.0	0.0	2.2
病院	188	175	93.5	95.1	94.3	75	73	100	94	10	5	3	3	0.071	0.054	0.061	1.5	1.6	1.6
診療所	365	409	91.0	92.1	91.6	148	164	197	214	17	22	3	9	0.035	0.077	0.060	0.7	2.0	1.4
計	844	995	89.0	92.6	90.9	326	384	451	532	54	61	13	18	0.059	0.055	0.056	1.4	1.7	1.5
合計		1,839		90.9		710		983		115		31		0.056			1.5		



4) 平成30年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数	車 檢 診			施設検診			受 診 者 数			要 精 檢 者 数			精 密 檢 查 結 果 別 人 員			がん陽性反応 発見率 (%)	Q=M+N+0 R=O/D P=M+N+0 R=O/H (%)
		A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O		
鳥取市	59,003	3,691	15,416	19,107	32.4	94	527	621	3.25	581	93.6	236	281	51	13	345	0.068	2.1
米子市	44,119	3,589	5,592	9,181	20.8	130	269	399	4.35	367	92.0	151	194	16	6	216	0.065	1.5
倉吉市	17,150	1,072	2,360	3,432	20.0	26	112	138	4.02	124	89.9	61	54	7	2	63	0.058	1.4
境港市	11,206	1,364	1,621	2,985	26.6	47	82	129	4.32	115	89.1	25	88	2	0	90	0.000	0.0
岩美町	4,582	1,236	361	1,597	34.9	37	15	52	3.26	49	94.2	18	30	1	0	31	0.000	0.0
八頭町	6,230	2,109	881	2,990	48.0	49	34	83	2.78	77	92.8	32	41	3	1	45	0.033	1.2
若桜町	1,539	201	530	731	47.5	5	17	22	3.01	20	90.9	3	16	1	0	17	0.000	0.0
智頭町	3,027	464	472	936	30.9	10	16	26	2.78	26	100.0	11	13	2	0	15	0.000	0.0
湯梨浜町	5,676	1,675	768	2,443	43.0	56	50	106	4.34	94	88.7	37	48	6	3	57	0.123	2.8
三朝町	2,574	905	170	1,075	41.8	32	15	47	4.37	39	83.0	12	26	1	0	27	0.000	0.0
北栄町	5,516	1,696	485	2,181	39.5	39	23	62	2.84	51	82.3	13	31	4	3	38	0.138	4.8
琴浦町	6,751	1,944	147	2,091	31.0	50	11	61	2.92	55	90.2	22	27	5	1	33	0.048	1.6
南部町	4,011	478	1,172	1,650	41.1	18	59	77	4.67	66	85.7	20	41	3	2	46	0.121	2.6
伯耆町	4,257	1,311	0	1,311	30.8	58	0	58	4.42	48	82.8	25	22	1	0	23	0.000	0.0
日吉津村	1,008	252	0	252	25.0	10	0	10	3.97	8	80.0	2	6	0	0	6	0.000	0.0
大山町	6,967	1,532	0	1,532	22.0	47	0	47	3.07	42	89.4	14	24	4	0	28	0.000	0.0
日南町	2,551	643	0	643	25.2	20	0	20	3.11	16	80.0	5	7	4	0	11	0.000	0.0
日野町	1,553	277	0	277	17.8	22	0	22	7.94	21	95.5	8	12	1	0	13	0.000	0.0
江府町	1,412	636	0	636	45.0	43	0	43	6.76	40	93.0	15	22	3	0	25	0.000	0.0
合 計	189,132	25,075	29,975	55,050	29.1	793	1,230	2,023	3.67	1,839	90.9	710	983	115	31	1,129	0.056	1.5
東 部	74,381	7,701	17,660	25,361	34.1	195	609	804	3.17	753	93.7	300	381	58	14	453	0.055	1.7
中 部	37,667	7,292	3,930	11,222	29.8	203	211	414	3.69	363	87.7	145	186	23	9	218	0.080	2.2
西 部	77,084	10,082	8,385	18,467	24.0	395	410	805	4.36	723	89.8	265	416	34	8	458	0.043	1.0

(3) 平成30年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,412、転移性151）	1,563例
他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5）	12例
総 計	1,575例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
原発性肺癌	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52
転移性肺腫瘍	7	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3
合 計	47	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	合計
原発性肺癌	41	65	55	49	58	74	47	46	50	49	1,412
転移性肺腫瘍	8	4	6	5	4	7	1	4	3	3	151
合 計	49	69	61	54	62	81	48	50	53	52	1,563

2) 原発性肺がん診断方法

胸 X 間 接	Dのみ Eのみ	245例 1,060例	1,305例(92.4%)	〔H30年度集計〕	
				Dのみ Eのみ	0例 46例
細胞診	Dのみ Eのみ	23例 35例	58例(4.1%)	2例 0例	46例(93.9%)
胸X線間接と細胞診	D + D D + E E + D E + E 不明	10例 9例 6例 21例 3例	46例(3.3%)	D + D D + E E + D E + E 不明	0例 0例 0例 1例 0例
					2例(4.1%)
					1例(2.0%)
					1例(0.0%)
					0例(0.0%)
計	1,412例			計	49例

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H 10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H 11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H 12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H 13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H 14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H 15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H 16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H 17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H 18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H 19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H 20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H 21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H 22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H 23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H 24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H 25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H 26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H 27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H 28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H 29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H 30	55,050	2,023(3.67%)	1,839(90.9%)	49	89
計	1,799,953	34,588(1.92%)	30,148(87.2%)	1,412	78

4) 原発性肺癌 (1,412例)

(1) 年齢・性別

[H30年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
~59歳	87例	6.2
60~69歳	428	30.3
70~79歳	646	45.7
80~	251	17.8
計	1412	100.0

平均年齢=72.1
男：女=838例：573例
(不明：1例)

区分	原発性肺癌	比率 (%)
~59歳	0例	0.0
60~69歳	15	30.6
70~79歳	25	51.0
80~	9	18.4
計	49	100.0

平均年齢=72.6
男：女=22例：27例
(不明：0例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

臨床病期	(%)
Occult	2例
0	0
I A	598(42.3)
I B	217
II A	55
II B	70
III A	163
III B	85
III C	1
IV	186
不明	35
計	1,412

[H30年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	0例
0	0
I A	28(57.1)
I B	3
II A	1
II B	1
III A	4
III B	2
III C	1
IV	9
不明	0
計	49

b. 組織型

組織型	(%)
扁平上皮癌	304例
腺癌	887(62.7)
大細胞癌	18
小細胞癌	84
腺扁平上皮癌	13
腺様囊胞癌	1
カルチノイド	1
不明	106
計	1,414*

[H30年度集計]

組織型	(%)
扁平上皮癌	7例
腺癌	35(71.4)
大細胞癌	0
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	1
腺様囊胞癌	0
カルチノイド	0
不明	3
計	49

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(886例、手術率：62.7%)

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期 (%)	術後病期 (%)
Occult	2例
0	0(0.0)
I A	528(59.6)
I B	177
II A	34
II B	43
III A	77
III B	15
III C	0
IV	9
不明	1
計	886

[H30年度集計]

原発性肺癌の手術症例 (32例、手術率：65.3%)

臨床病期 (%)	術後病期 (%)
Occult	0例
0	0
I A	27(84.3)
I B	3
II A	0
II B	1
III A	1
III B	0
III C	0
IV	0
不明	0
計	32

25
(78.1%)

* I A の内訳…… I A 1 : 9例、I A 2 : 9例、I A 3 : 3例

b. 組織型分類

組織型	(%)
扁平上皮癌	5例
腺癌	26(81.3)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様囊胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	32

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3
11~20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)	21(40.4)
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm

最高90mm 70mm 80mm 100mm 85mm 145mm 70mm 85mm 59mm 57mm 71mm

腫瘍径 (mm)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	第7版
0~10	2	2	1	4	3	3	0	1	8	11	1
11~20	10	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(28.6)	14
21~30	13(31.7)	26(40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	11	15
31~40	8	15	6	8	8	7	14	13	2	2	5
41~50	6	6	4	6	5	6	6	5	2	6	7
51~	2	2	11	2	6	5	3	2	8	3	5
不明	0	1	1	2	0	4	0	1	0	2	2
計	41	65	55	49	58	74	47	46	50	49	49
平均	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	21.6mm	32.1mm

最高68mm 80mm 90mm 100mm 60mm 70mm 70mm 56mm 83mm 115mm 115mm

5) 転移性肺腫瘍 (151例)

大腸癌：34例	乳癌：20例	前立腺癌：14例	甲状腺癌：12例	腎臓癌：11例
肝臓癌：9例	胃癌：6例	子宮癌：5例	胆管癌：4例	膵臓癌：4例
尿管癌：4例	胆のう癌：4例	膀胱癌：3例	肺癌：2例	食道癌：2例
卵巣癌：2例	子宮肉腫：1例	胸腺癌：1例	肛門癌：1例	頸下腺癌：1例
咽頭癌：1例	後腹膜腫瘍：1例	卵管肉腫：1例	不明：8例	

[H30年度集計] (3例)

前立腺癌：1例、大腸癌：1例、不明：1例

平成30年度肺がん検診で発見された肺がん症例の特徴

1. 受診者数は昨年より274名増加し、受診率は29.1% (+0.1%) であった。要精検率は3.67% (+0.18%) と増加、精検受診率は90.9% (+1.4%) と増加した。肺がんは31名 (+3名) 発見され、そのうち原発性肺がんは31名 (+4名)、がん発見率は0.06% (+0.01%)、陽性反応適中度1.5% (+0.1%) となり、いずれも昨年を上回った。
2. 予後調査では原発性肺がん49例、転移性肺腫瘍3例、合計52例の肺がん確定診断を得た。最終報告で115名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により原発性肺がんが19名（転移性肺腫瘍は0名）発見され、肺がん疑いのままが50名、良性が10名、異常なし32名、不明1名、現在なお調査中が3名という結果であった。なお、初回の精密検査で原発性肺がんと診断された1例が術後病理で大腸癌の転移性肺腫瘍と判明した。肺がん疑いと調査中の53名は今後2年間フォローを続ける予定である。
3. 発見された原発性肺がんのうち46例 (93.9%) が胸部X線のみで発見され、2例 (4.1%) が喀痰細胞診のみで発見された。また、1例 (2.0%) は胸部X線および喀痰細胞診いずれも陽性 (E1 + E) で、非経年受診（初回）であった。cT4N0M1c, Stage IVBで、検診受診後約5ヶ月で肺がん死した。
4. 原発性肺がんの平均年齢は72.6歳、女性肺がんは27例 (55.1%)、臨床病期はI期31例 (63.3%)、腺癌は35例 (71.4%) と例年どおりI期の肺腺癌の割合が多かった。
5. 手術症例の割合は32例 (65.3%)、術後病期I期の肺がんは24例 (75.0%) であり、術後病期0期 (Tis) が1例 (3.1%) あった。腺癌が26例 (81.3%) であった。
6. 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均21.6mm (-10.6mm) と昨年より著明に小さくなった。しかしながら、第7版に準じた腫瘍径は32.1mm (-0.1mm) とほとんど変わらなかった。
7. 転移性肺腫瘍は3例で、原発巣は前立腺癌1例、大腸癌1例、不明1例であった。

平成30年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	25,075	29,975
要精検数	全県：793 (3.16%) 東部：195 (2.53%) 中部：203 (2.78%) 西部：395 (3.92%)	全県：1,230 (4.10%) 東部：609 (3.45%) 中部：211 (5.37%) 西部：410 (4.89%)
確定者数	23名 (0.092%) (東部7、中部8、西部8)	26名 (0.087%) (東部17、中部3、西部6)
発見方法	E1：15名、E2：2名、E：3名 E1 + 喀痰E：1名 B + 喀痰D：2名	E1：21名、E2：4名 E：1名
年 齡	74.0歳	71.4歳
性 差	男12名、女11名	男10名、女16名
臨床病期	I A 15名、I B 1名 II A 1名、II B 1名 III A 1名、III B 1名、III C 0名 IV 3名、不明0名	I A 13名、I B 2名 II A 0名、II B 0名 III A 3名、III B 1名、III C 1名 IV 6名、不明0名
組 織 型	扁平上皮癌4名、腺癌17名、 腺扁平上皮癌0名、大細胞癌0名、 小細胞癌2名、不明0名	扁平上皮癌3名、腺癌18名、 腺扁平上皮癌1名、大細胞癌0名、 小細胞癌1名、不明3名
手 術	あり16名、なし7名	あり16名、なし10名
腫瘍径	32.3 (充実成分径：25.1) mm	32.0 (充実成分径：16.0) mm

4. 乳がん検診

1. 乳がん検診実績

平成30年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数19,075人、受診率16.5%で、受診率は前年度より0.2ポイント低下した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数44,660人、受診者数14,064人、受診率31.5%であった。

要精検者数1,140人、要精検率5.98%で前年度より0.41ポイント上昇した。精検受診者数1,078人、精検受診率は94.6%で、平成29年度より1.4ポイント減であった。

精検の結果、乳がん60人、がん発見率（がん/受診者数）0.31%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）5.26%であった。がん疑いは1人発見された。平成29年度に比べ、がん発見率は0.07ポイント、陽性反応適中度は1.62ポイント減少した。

検診受診率は近年16～17%台で推移しており、大きな変動は認めていない。マンモグラフィ単独検診での要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度のすべてにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていたが、受診率のみは目標値と大きな隔たりがある。

〈検診機関別受診結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	8,390 (44.0%)	520	6.20
施設検診 (病院・診療所)	10,685 (56.0%)	620	5.80
計	19,075 (100%)	1,140	5.98

(2) 精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
車検診	487	93.7	27	0.32
施設検診	591	95.3	33	0.31
計	1,078	94.6	60	0.31

〈圏域別結果〉

区分	対象者数	受診者数	受診率(%)	要精検者数	要精検率(%)	精 檢 受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
東 部	45,081	7,912	17.55	408	5.16	398	97.5	25	0.32
中 部	22,648	3,703	16.35	281	7.59	264	94.0	18	0.49
西 部	47,740	7,460	15.63	451	6.05	416	92.2	17	0.23
計	115,469	19,075	16.52	1,140	5.98	1,078	94.6	60	0.31

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成30年度の確定乳がんは60例で、前年度より12例減少した。確定乳癌の平均年齢は62.5歳で、60歳代の患者が最も多かった。初回検診患者での乳癌発見例が多く、初回患者の掘り起こしが重要である。61.7%が早期癌であり、ステージ4の症例は認めなかった。術式は乳房全切除術が過半数となっており、全国的な傾向と一致している。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区分		25年度	26年度	27年度	28年度	28年度・鳥取市分含	29年度	30年度
一次検診	対象者数(人) A	118,248	118,248	118,248	115,469	115,469	115,469	115,469
	受診者数(人) B	18,715	18,959	20,666	13,226	19,245	19,317	19,075
	受診率(%) C = B/A	29.6 15.8	30.5 16.0	32.3 17.5	27.6 11.5	33.1 16.7	32.3 16.7	16.5
一次検診結果	異常認めず(人) D	17,423	17,566	18,977	12,265	18,001	18,242	17,935
	要精検者数(人) E	1,292	1,393	1,689	961	1,244	1,075	1,140
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	6.90	7.35	8.17	7.27	6.46	5.57	5.98
精密検査	精検受診者数(人) G	1,184	1,283	1,609	896	1,172	1,032	1,078
	精検受診率(%) H = G/E	91.6	92.1	95.3	93.2	94.2	96.0	94.6
精密検査結果	乳がんの者(人) I 指標 0.23%以上	74(2)	92(5)	91(3)	49(2)	67(3)	74(3)	60(1)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 2.5%以上	0.40	0.49	0.44	0.37	0.35	0.38	0.31
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	5.73	6.60	5.39	5.10	5.39	6.88	5.26
確定調査結果	確定がん数(人) L	67	90	90	45	63	72	60
	確定がん率(%) M = L/B	0.36	0.47	0.44	0.34	0.33	0.37	0.31

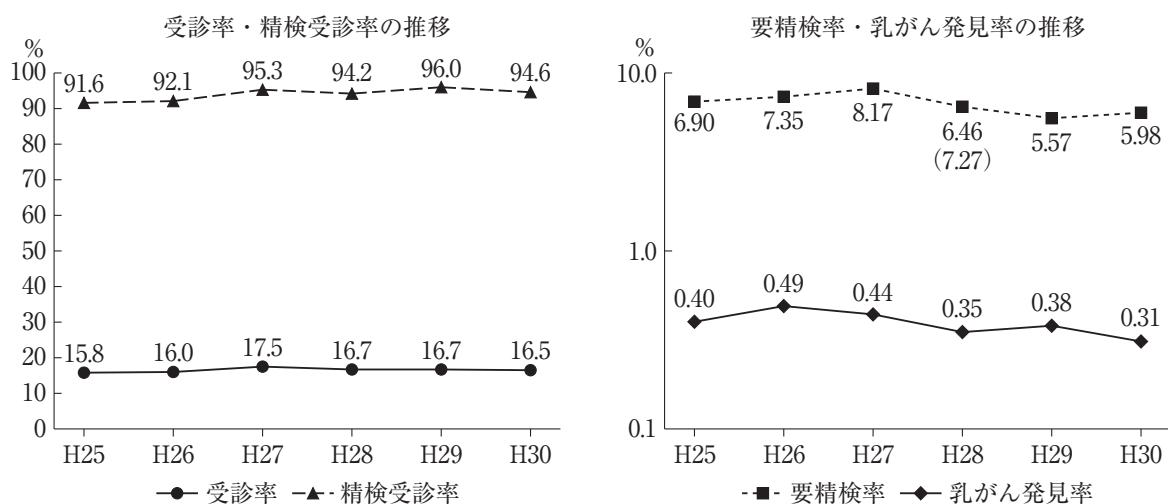
* 1 精密検査結果欄の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上

* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

* 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。

* 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上

* 5 29年度実績から、検診方法がマンモグラフィのみとなった



(2) 平成30年度乳がん検診（マンモグラフィーのみの受診者）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	3,950	2,353	59.6	210	2,143	8.92
45～49歳	3,400	1,876	55.2	175	1,701	9.33
50～54歳	3,868	2,103	54.4	156	1,947	7.42
55～59歳	5,767	1,903	33.0	103	1,800	5.41
60～64歳	11,161	2,987	26.8	152	2,835	5.09
65～69歳	16,514	2,842	17.2	135	2,707	4.75
70～74歳	15,344	2,817	18.4	109	2,708	3.87
75～79歳	16,002	1,402	8.8	67	1,335	4.78
80歳以上	39,463	792	2.0	33	759	4.17
計	115,469	19,075	16.5	1,140	17,935	5.98

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) $g = f / d$	精 密 検 査 結 果				乳がん発見率 (%) $i = h / b$	陽性反応適中度 (%) $j = h / d$
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40~44歳	201	95.7	70	126	0	5	0.21	2.38
45~49歳	163	93.1	68	91	0	4	0.21	2.29
50~54歳	151	96.8	61	86	0	4	0.19	2.56
55~59歳	97	94.2	42	49	0	6	0.32	5.83
60~64歳	146	96.1	77	56	0	13	0.44	8.55
65~69歳	123	91.1	72	37	1	13	0.46	9.63
70~74歳	104	95.4	60	35	0	9	0.32	8.26
75~79歳	63	94.0	47	14	0	2	0.14	2.99
80歳以上	30	90.9	16	10	0	4	0.51	12.12
計	1,078	94.6	513	504	1	60	0.31	5.26

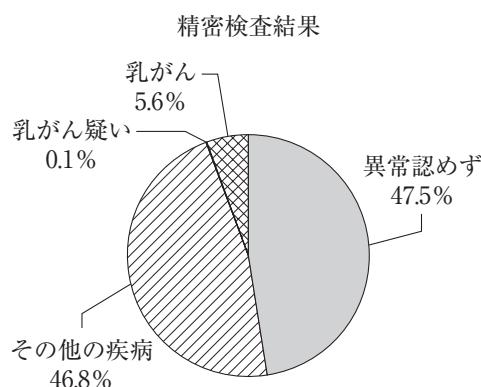
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果		要精検率 (%) $c' = b' / a'$
		要精検者数 b'	異常認めず	
保健事業団	8,260	515	7,745	6.23
中国労働衛生協会	130	5	125	3.85
病院	8,930	498	8,432	5.58
診療所	1,755	122	1,633	6.95
計	19,075	1,140	17,935	5.98

b. 精密検査結果

検診機関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) $f' = d' / b'$	精 密 検 査 結 果				乳がん発見率 (%) $h' = g' / a'$	陽性反応適中度 (%) $I' = h' / b'$
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保健事業団	482	93.6	244	211	0	27	0.33	5.24
中国労働衛生協会	5	100.0	2	3	0	0	0.00	0.00
病院	474	95.2	219	223	1	31	0.35	6.22
診療所	117	95.9	48	67	0	2	0.11	1.64
計	1,078	94.6	513	504	1	60	0.31	5.26



4) 平成30年度乳がん検診受診状況（マンモグラフィーのみの受診者）

市町村名	対象者数	車検診			施設検診			計			受診率(%)			要精検者数			精査結果別人員			がん発見率(%)			
		A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M+N+0	Q = O/D	R = O/H				
鳥取市	35,981	2,479	3,590	6,069	16.9	161	152	313	5.16	306	97.8	142	146	0	18	164	0.297	5.8					
米子市	27,725	533	3,424	3,957	14.3	33	229	262	6.62	251	95.8	102	142	0	7	149	0.177	2.7					
倉吉市	10,453	531	626	1,157	11.1	38	59	97	8.38	85	87.6	43	37	0	5	42	0.432	5.2					
境港市	6,910	390	648	1,038	15.0	31	49	80	7.71	66	82.5	19	40	0	7	47	0.674	8.8					
岩美町	2,704	186	360	546	20.2	13	19	32	5.86	32	100.0	13	15	1	3	19	0.549	9.4					
八頭町	3,681	633	169	802	21.8	33	9	42	5.24	39	92.9	25	12	0	2	14	0.249	4.8					
若桜町	908	146	27	173	19.1	3	1	4	2.31	4	100.0	3	0	0	1	1	1	0.578	25.0				
智頭町	1,807	143	179	322	17.8	9	8	17	5.28	17	100.0	8	8	0	1	9	0.311	5.9					
湯梨浜町	3,347	517	171	688	20.6	32	9	41	5.96	40	97.6	29	11	0	0	11	0.000	0.0					
三朝町	1,544	277	40	317	20.5	25	3	28	8.83	28	100.0	17	7	0	4	11	1.262	14.3					
北栄町	3,260	533	122	655	20.1	30	19	49	7.48	48	98.0	22	21	0	5	26	0.763	10.2					
琴浦町	4,044	663	223	886	21.9	43	23	66	7.45	63	95.5	39	20	0	4	24	0.451	6.1					
南部町	2,416	284	410	694	28.7	17	14	31	4.47	29	93.5	19	10	0	0	10	0.000	0.0					
伯耆町	2,584	178	213	391	15.1	6	6	12	3.07	11	91.7	3	8	0	0	8	0.000	0.0					
日吉津村	649	100	64	164	25.3	4	2	6	3.66	5	83.3	1	4	0	0	4	0.000	0.0					
大山町	4,109	433	181	614	14.9	26	8	34	5.54	31	91.2	15	14	0	2	16	0.326	5.9					
日南町	1,521	209	47	256	16.8	9	1	10	3.91	9	90.0	4	4	0	1	5	0.391	10.0					
日野町	962	155	0	155	16.1	7	0	7	4.52	7	100.0	4	3	0	0	3	0.000	0.0					
江府町	864	0	191	191	22.1	0	9	9	4.71	7	77.8	5	2	0	0	2	0.000	0.0					
合 計	115,469	8,390	10,685	19,075	16.5	520	620	1,140	5.98	1,078	94.6	513	504	1	60	565	0.315	5.3					
東 部	45,081	3,587	4,325	7,912	17.6	219	189	408	5.16	398	97.5	191	181	1	25	207	0.316	6.1					
中 部	22,648	2,521	1,182	3,703	16.4	168	113	281	7.59	264	94.0	150	96	0	18	114	0.486	6.4					
西 部	47,740	2,282	5,178	7,460	15.6	133	318	451	6.05	416	92.2	172	227	0	17	244	0.228	3.8					

(3) 平成30年度検診発見乳がん追跡調査結果

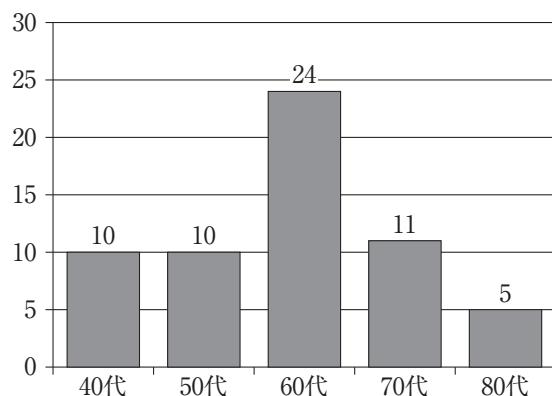
1) 確定乳癌60例

東部地区 (25例) : 鳥取市 17例 岩美町 4例 八頭町 2例 智頭町 1例
若桜町 1例

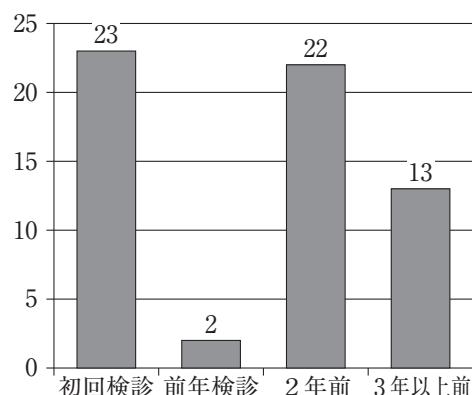
中部地区 (18例) : 倉吉市 5例 北栄町 5例 三朝町 4例 琴浦町 4例

西部地区 (17例) : 米子市 7例 境港市 7例 大山町 2例 日南町 1例

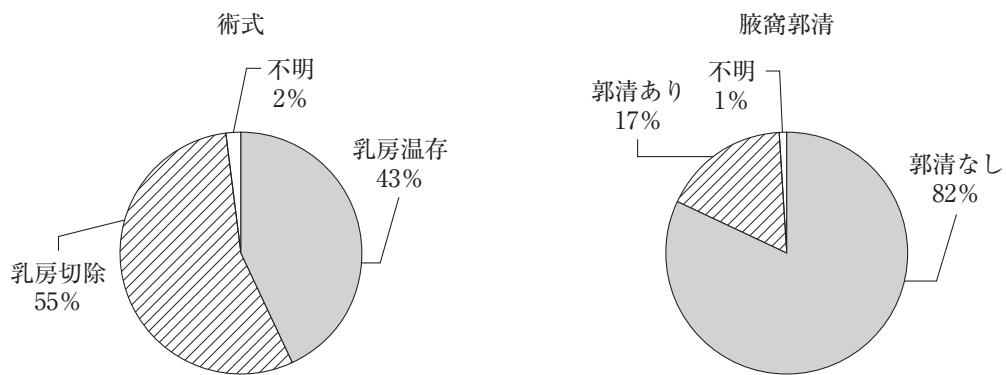
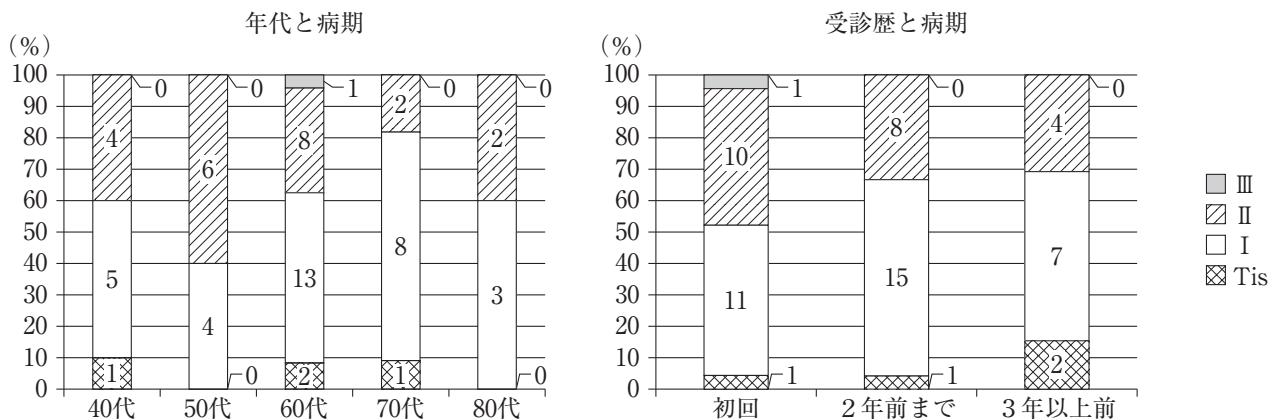
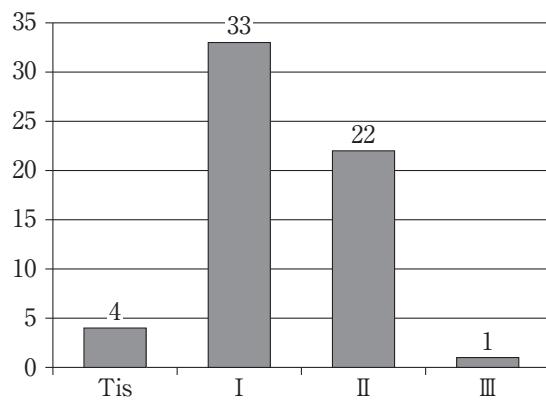
2) 年齢構成 平均年齢: 62.5歳



3) 検診歴



4) 病期



まとめ

- 平成30年度の乳癌確定症例は60例であった。前年度の72例に比較して減少していた。中部地区症例の増加、米子市での減少が目立った。
- 発見癌患者の平均年齢は62.5歳で前年度とほぼ同様であり、60代の患者が多くなった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平均年齢は高齢である。
- 初回検診患者での乳癌発見例が多く、初回患者の掘り起しが重要であると考えられる。
- 病期に関しては、61.7%が早期癌症例であった。50代では、他の年代より早期癌症例が少なかった。StageIV症例は認めなかった。
- 術式に関しては従来は乳房部分切除（乳房温存）が多かったが、H30年度は乳房切除術が過半数であった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成30年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は189,132人で、このうち受診者数は56,991人、受診率は30.1%で、前年度に比べ、受診率は0.2ポイント減少したものの平成28年度から30%台をキープしている。平成20年度以降、受診者数、受診率ともに上昇傾向が続いているが、平成27年度をピークに減少傾向が続いている。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数28,684人、受診率37.3%で、全国平均（平成29年度）受診率8.4%に比較し高い。

一次検査による要精検者数は4,746人で要精検率は8.3%（前年比0.5ポイント減）であった。要精検者のうち精密検査を受診したのは3,696人で精検受診率は77.9%（前年度比0.1ポイント増）であった。また、精検の結果大腸がんであったのが170人でがん発見率は0.30%（前年度比0.01ポイント減）、陽性反応的中度は3.6%（前年比0.1ポイント増）であった。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応的中度は国の許容値を満たしており、例年と同様に精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	21,021 (36.9%)	1,408	6.7	6.7	6.5	7.0
施設検診 (病院・診療所)	35,970 (63.1%)	3,338	9.3	8.4	10.4	10.0
計	56,991 (100%)	4,746	8.3	7.8	7.8	9.2

(2) 精密検査

区分	精 檢 受診者数	精 檢 受診率 (%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,045	74.2	51	0.243	0.243	0.162	0.345
施 設 検 診	2,651	79.4	119	0.331	0.313	0.244	0.370
計	3,696	77.9	170	0.298	0.290	0.190	0.363

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区分	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東部	522	6.7	399	76.4	2	19	0.243
中部	479	6.5	387	80.8	0	12	0.162
西部	407	7.0	259	63.6	3	20	0.345
計	1,408	6.7	1,045	74.2	5	51	0.243

(2) 施設検診

区分	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	がん	がん発見率
東部	1,393	8.4	1,083	77.7	2	52	0.313
中部	384	10.4	291	75.8	2	9	0.244
西部	1,561	10.0	1,277	81.8	4	58	0.370
計	3,338	9.3	2,651	79.4	8	119	0.331

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い179例について確定調査を行った結果、確定癌170例（地域検診49例、施設検診121例）、腺腫3例、その他6例であった。そのうち早期がんは106例、早期癌率は62.4%で、平成29年度に比べ早期がんが増えている。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多かった。
平成29年度は40歳代男性からがんが6例発見されたが、平成30年度は1例であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が69.4%で、肉眼分類では「2」28.8%であった。早期癌100例の肉眼分類では「I p」「I sp」が47.0%であった。
- (3) 深達度「m」が45.9%、「sm」が16.5%で、早期癌率62.4%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が64.7%、組織型分類は「Well」が63.5%、「Mod」が30.0%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が21例(12.4%)、内視鏡下手術65例(38.2%)、内視鏡治療は80例(47.1%)であった。内視鏡治療の割合が増えた。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは27例（東部9例、中部7例、西部11例）であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

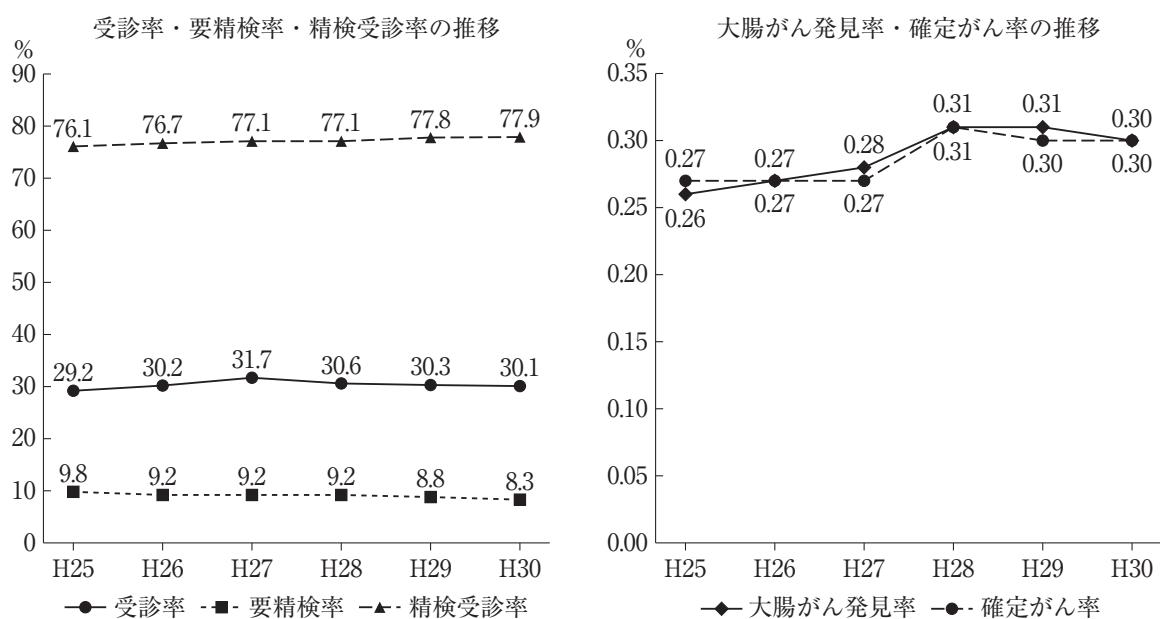
区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
一次検診	対象者数(人) A	190,556	190,556	190,556	189,132	189,132	189,132
	受診者数(人) B	55,556	57,502	60,329	57,917	57,352	56,991
	受診率(%) C = B/A	29.2	30.2	31.7	30.6	30.3	30.1
一次検診結果	異常認めず(人) D	50,100	52,222	54,810	52,596	52,323	52,245
	要精検者数(人) E	5,456	5,280	5,519	5,321	5,029	4,746
	要精検率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	9.82	9.18	9.15	9.20	8.77	8.33
精密検査	精密受診者数(人) G	4,151	4,049	4,253	4,102	3,911	3,696
	精密受診率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	76.1	76.7	77.1	77.1	77.8	77.9
精密検査結果	大腸がんの者(人) I	146(9)	156(10)	166(14)	177(14)	175(7)	170(13)
	大腸がん発見率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.26	0.27	0.28	0.31	0.31	0.30
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	2.7	3.0	3.0	3.3	3.5	3.6
確定調査結果	確定がん数(人) L	148	155	165	181	171	170
	確定がん率(%) M = L/B	0.27	0.27	0.27	0.31	0.30	0.30

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成30年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数		一次 検 診		受診率 (%) C = b / a			一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b			
			受 診 者 数					d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	
40~44歳	2,702	3,950	875	1,709	32.4	43.3	38.8	48	100	827	1,609	5.5	5.9	5.7
45~49歳	2,391	3,400	816	1,674	34.1	49.2	43.0	51	98	765	1,576	6.3	5.9	6.0
50~54歳	2,494	3,868	748	1,735	30.0	44.9	39.0	57	107	691	1,628	7.6	6.2	6.6
55~59歳	3,464	5,767	923	2,340	26.6	40.6	35.3	52	126	871	2,214	5.6	5.4	5.5
60~64歳	7,789	11,161	2,295	4,119	29.5	36.9	33.8	184	250	2,111	3,869	8.0	6.1	6.8
65~69歳	13,314	16,514	4,807	6,643	36.1	40.2	38.4	400	421	4,407	6,222	8.3	6.3	7.2
70~74歳	11,961	15,344	5,080	6,611	42.5	43.1	42.8	522	469	4,558	6,142	10.3	7.1	8.5
75~79歳	11,039	16,002	3,624	5,015	32.8	31.3	31.9	424	445	3,200	4,570	11.7	8.9	10.1
80歳以上	18,509	39,463	3,380	4,597	18.3	11.6	13.8	495	497	2,885	4,100	14.6	10.8	12.4
計	73,663	115,469	22,548	34,443	30.6	29.8	30.1	2,233	2,513	20,315	31,930	9.9	7.3	8.3
合 計	189,132		56,991			30.1			4,746		52,245			8.3

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数	精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果						大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d					
					異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん								
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
40~44歳	30	68	62.5	68.0	66.2	10	46	20	22	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45~49歳	33	72	64.7	73.5	70.5	3	38	29	34	0	0	1	0	0.123	0.000	0.040	2.0	0.0	0.7
50~54歳	33	81	57.9	75.7	69.5	5	35	27	43	0	0	1	3	0.134	0.173	0.161	1.8	2.8	2.4
55~59歳	38	102	73.1	81.0	78.7	8	41	25	56	0	0	5	5	0.542	0.214	0.306	9.6	4.0	5.6
60~64歳	123	212	66.8	84.8	77.2	23	92	93	113	0	0	7	7	0.305	0.170	0.218	3.8	2.8	3.2
65~69歳	305	356	76.3	84.6	80.5	48	127	231	217	2	1	24	11	0.499	0.166	0.306	6.0	2.6	4.3
70~74歳	410	393	78.5	83.8	81.0	72	141	310	239	2	3	26	10	0.512	0.151	0.308	5.0	2.1	3.6
75~79歳	341	383	80.4	86.1	83.3	59	122	269	239	1	1	12	21	0.331	0.419	0.382	2.8	4.7	3.8
80歳以上	374	342	75.6	68.8	72.2	84	98	268	226	3	0	19	18	0.562	0.392	0.464	3.8	3.6	3.7
計	1,687	2,009	75.5	79.9	77.9	312	740	1,272	1,189	8	5	95	75	0.421	0.218	0.298	4.3	3.0	3.6
合計	3,696		77.9			1,052		2,461		13		170		0.298			3.6		

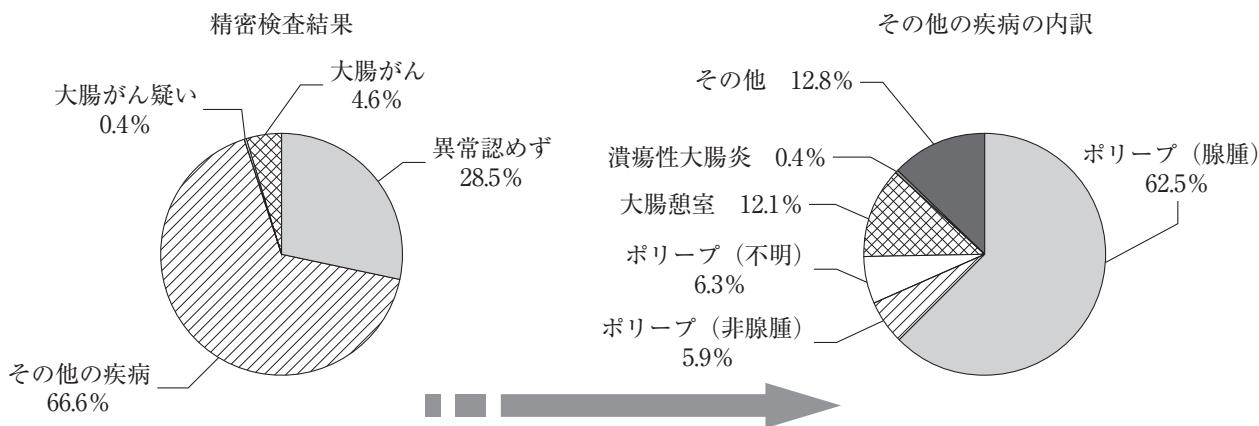
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果						要精検率 (%) $c' = b' / a'$		
		要精検者数 b'		異常認めず						
		男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	7,780	12,423	657	708	7,123	11,715	8.4	5.7	6.8	
中国労働衛生協会	307	511	20	23	287	488	6.5	4.5	5.3	
地域検診小計	8,087	12,934	677	731	7,410	12,203	8.4	5.7	6.7	
病院	4,454	6,063	474	531	3,980	5,532	10.6	8.8	9.6	
診療所	10,007	15,446	1,082	1,251	8,925	14,195	10.8	8.1	9.2	
施設検診小計	14,461	21,509	1,556	1,782	12,905	19,727	10.8	8.3	9.3	
計	22,548	34,443	2,233	2,513	20,315	31,930	9.9	7.3	8.3	
合計		56,991		4,746		52,245				8.3

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) $e' = d' / b'$	精密検査結果						大腸がん発見率 (%) $g' = f' / a'$			陽性反応適中度 (%) $h' = f' / b'$								
			異常認めず			その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		大腸がん発見率 (%) $g' = f' / a'$								
			男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計						
保健事業団	476	560	72.5	79.1	75.9	85	212	360	323	3	2	28	23	0.360	0.185	0.252	4.3	3.5	3.7	
中国労働衛生協会	2	7	10.0	30.4	20.9	1	2	1	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	
地域検診小計	478	567	70.6	77.6	74.2	86	214	361	328	3	2	28	23	0.346	0.178	0.243	4.1	3.1	3.6	
病院	360	427	75.9	80.4	78.3	56	171	281	246	3	0	20	10	0.449	0.165	0.285	4.2	2.1	3.0	
診療所	849	1,015	78.5	81.1	79.9	170	355	630	615	2	3	47	42	0.470	0.272	0.350	4.3	3.9	3.8	
施設検診小計	1,209	1,442	77.7	80.9	79.4	226	526	911	861	5	3	67	52	0.463	0.242	0.331	4.3	2.9	3.6	
計	1,687	2,009	75.5	79.9	77.9	312	740	1,272	1,189	8	5	95	75	0.421	0.218	0.298	4.3	3.4	3.6	
合計					77.9		1,052		2,461		13		170		0.298			3.6		



4) 平成30年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数	地域検診				施設検診				受診率 (%)				地域検診 施設検診				要精検者数				精査結果 別人員				がん発見率 (%)			
		A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H										
鳥取市	59,003	4,049	14,350	18,399	31.2	259	1,214	1,473	8.0	1,146	77.8	325	763	2	56	821	0.304	3.8											
米子市	44,119	0	11,824	26.8	0	1,147	1,147	9.7	911	79.4	269	596	2	44	642	0.372	3.8												
倉吉市	17,150	1,092	2,335	3,427	20.0	80	243	323	9.4	253	78.3	70	173	1	9	183	0.263	2.8											
境港市	11,206	835	2,434	3,269	29.2	59	232	291	8.9	254	87.3	75	168	3	8	179	0.245	2.7											
岩美町	4,582	1,239	418	1,657	36.2	90	28	118	7.1	95	80.5	18	70	0	7	77	0.422	5.9											
八頭町	6,230	2,043	775	2,818	45.2	136	78	214	7.6	152	71.0	35	114	0	3	117	0.106	1.4											
若桜町	1,539	206	423	629	40.9	13	28	41	6.5	31	75.6	5	23	1	2	26	0.318	4.9											
智頭町	3,027	295	663	958	31.6	24	45	69	7.2	58	84.1	14	40	1	3	44	0.313	4.3											
湯梨浜町	5,676	1,451	733	2,184	38.5	100	67	167	7.6	138	82.6	43	90	0	5	95	0.229	3.0											
三朝町	2,574	648	208	856	33.3	28	30	58	6.8	39	67.2	12	24	1	2	27	0.234	3.4											
北栄町	5,516	2,403	263	2,666	48.3	159	27	186	7.0	139	74.7	43	94	0	2	96	0.075	1.1											
琴浦町	6,751	1,791	146	1,937	28.7	112	17	129	6.7	109	84.5	24	82	0	3	85	0.155	2.3											
南部町	4,011	458	1,112	1,570	39.1	36	157	193	12.3	127	65.8	37	83	0	7	90	0.446	3.6											
伯耆町	4,257	1,165	0	1,165	27.4	78	0	78	6.7	59	75.6	24	28	2	5	35	0.429	6.4											
日吉津村	1,008	273	252	525	52.1	23	22	45	8.6	31	68.9	8	20	0	3	23	0.571	6.7											
大山町	6,967	1,478	0	1,478	21.2	104	0	104	7.0	71	68.3	23	40	0	8	48	0.541	7.7											
日南町	2,551	639	34	673	26.4	56	3	59	8.8	43	72.9	15	27	0	1	28	0.149	1.7											
日野町	1,553	349	0	349	22.5	18	0	18	5.2	13	72.2	3	9	0	1	10	0.287	5.6											
江府町	1,412	607	0	607	43.0	33	0	33	5.4	27	81.8	9	17	0	1	18	0.165	3.0											
合計	189,132	21,021	35,970	56,991	30.1	1,408	3,338	4,746	8.3	3,696	77.9	1,052	2,461	13	170	2,644	0.298	3.6											
東部	74,381	7,832	16,629	24,461	32.9	522	1,393	1,915	7.8	1,482	77.4	397	1,010	4	71	1,085	0.290	3.7											
中部	37,667	7,385	3,685	11,070	29.4	479	384	863	7.8	678	78.6	192	463	2	21	486	0.190	2.4											
西部	77,084	5,804	15,656	21,460	27.8	407	1,561	1,968	9.2	1,536	78.0	463	988	7	78	1,073	0.363	4.0											

(3) 平成30年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	21	12	21	54	54	10	61	125	75	22	82	179
確定癌	20	12	17	49	52	10	59	121	72	22	76	170
腺腫	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	2	3
その他	1	0	3	4	1	0	1	2	2	0	4	6

表2 性及び年齢

年齢		40~	45~	50~	55~	60~	65~	70~	75~	80~	計
地域	男	0	1	0	1	2	10	4	3	5	26
	女	0	0	1	3	1	4	4	4	6	23
	計	0	1	1	4	3	14	8	7	11	49
施設	男	0	0	1	4	5	13	21	11	13	68
	女	0	0	2	2	6	6	10	16	11	53
	計	0	0	3	6	11	19	31	27	24	121
計	男	0	1	1	5	7	23	25	14	18	94
	女	0	0	3	5	7	10	14	20	17	76
総計		0	1	4	10	14	33	39	34	35	170

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	5	2	3	10	12	3	20	35	45(26.5)
S	5	5	5	15	21	2	18	41	56(32.9)
D	0	1	2	3	3	1	3	7	10(5.9)
T	2	1	2	5	7	1	6	14	19(11.2)
A	4	1	3	8	7	3	10	20	28(16.5)
C	3	2	2	7	2	0	2	4	11(6.5)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	0	1	0	0	0	0	1(0.6)
計	20	12	17	49	52	10	59	121	170

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	6	4	2	12	15	4	15	34	46(27.1)
11~20	6	2	8	16	19	3	17	39	55(32.4)
21~50	6	6	5	17	9	2	20	31	48(28.2)
51~	0	0	0	0	6	0	7	13	13(7.6)
不明	2	0	2	4	3	1	0	4	8(4.7)
計	20	12	17	49	52	10	59	121	170

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	30	70	100(58.8)
1	3	2	5(2.9)
2	13	36	49(28.8)
3	1	1	2(1.2)
4	0	0	0
5	0	1	1(0.6)
不明	2	11	13(7.6)
計	49	121	170

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	7	13	20(20.0)
I sp	8	19	27(27.0)
I s	8	14	22(22.0)
II a	5	14	19(19.0)
II a + II c	1	6	7(7.0)
II b	0	0	0
II c	1	2	3(3.0)
III	0	0	0
その他	0	2	2(2.0)
不明	0	0	0
計	30	70	100

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	11	5	9	20	5	28	78(45.9)
sm	5	0	1	11	3	8	28(16.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	16	5	10	31	8	36	106(62.4)
mp	3	2	3	6	0	5	19(11.2)
ss	0	5	2	9	1	14	31(18.2)
se	1	0	1	6	1	2	11(6.5)
si	0	0	0	0	0	1	1(0.6)
不明	0	0	1	0	0	1	2(1.2)
計	20	12	17	52	10	59	170

表8 Dukes分類

Dukes分類	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	20	6	10	36	5	33	110(64.7)
B	0	4	1	6	1	11	23(13.5)
C	0	1	0	3	1	5	10(5.9)
D	0	0	2	3	1	1	7(4.1)
不明	0	1	4	4	2	9	20(11.8)
計	20	12	17	52	10	59	170

表9 組織型分類

組織型	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	14	9	9	32	5	39	108(63.5)
Mod	3	3	6	18	3	18	51(30.0)
Por	0	0	1	1	1	1	4(2.4)
Muc	1	0	0	0	0	1	2(1.2)
その他	0	0	0	1	0	0	1(0.6)
不明	2	0	1	0	1	0	4(2.4)
計	20	12	17	52	10	59	170

※その他：pap

表10 治療法

治療方法	地 域 檢 診			施 設 檢 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外 科 手 術	4	1	2	5	0	9	21(12.4)
内視鏡下手術	5	6	5	22	4	23	65(38.2)
内視鏡治療	11	5	8	23	6	27	80(47.1)
その 他 不 明	0	0	2	2	0	0	4(2.4)
計	20	12	17	52	10	59	170

6. 肝臓がん検診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H 10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H 14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H 10～13と同様
H 15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H 14～と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH 16で廃止（定期検査は継続）
H 17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H 14～と同様
H 19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H 23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成30年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成30年度は19市町村で実施し、対象者は207,065人（前年度214,776人）のうち受検者数は5,521人（前年度5,670人）で、受検率は2.7%（前年度2.6%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者58人、1.1%（前年度1.2%）、HCV抗体陽性者15人、0.3%（前年度0.3%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は46人、63.9%（前年度71.8%）と前年より7.9ポイント減少した。精検受診者46人中肝臓がん1人が発見された（がん発見率0.02%）。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は18市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定期 檢 查 結 果			
				慢 性 肝 炎	肝 硬 变	肝 臓 が ん	が ん 疑 い
B型肝炎	1,869人	965人	51.6%	138人 (14.3%)	10人 (1.0%)	5人 (0.5%)	4人 (0.4%)
C型肝炎	740人	381人	51.5%	72人 (18.9%)	7人 (1.8%)	7人 (1.8%)	5人 (1.3%)

受診率は50%程度と必ずしも十分ではない。

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成30年度の24年間を集計すると、受診者総数は165,929人、そのうち、HBs抗原陽性者3,587人 陽性率2.16%、HCV抗体陽性者3,737人 陽性率2.25%であった。年齢別陽性率はB型は50～54歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは平成30年度までで31人で現在生存中の患者は5人であった。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは平成30年度までで168人で現在生存中の患者は46人である。予後調査ができている平成29年度までの患者で累積生存率を比較すると定期検査発見がんで有意に予後が良好であった。しかし、定期検査群の5年生存率は41%、肝臓がん検診群は22%とまだまだ改善の必要がある。

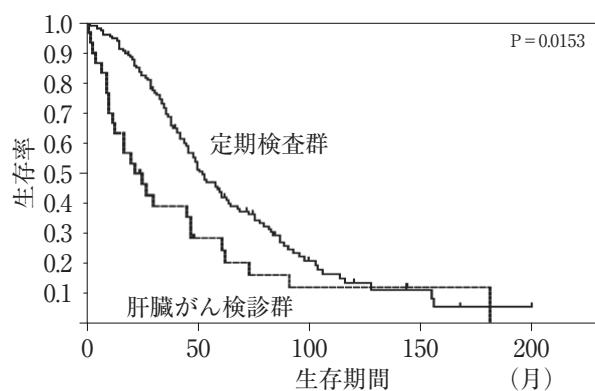


図1. 肝がん検診及び定期検査による
発見がんの累積生存率

(1) 肝炎ウィルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 檢 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H28	6,292	90	1.4	16	0.3
H29	5,670	70	1.2	16	0.3
H30	5,521	58	1.1	15	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H28	105	82	78.1	0	0.00
H29	85	61	71.8	0	0.00
H30	72	46	63.9	1	0.02

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成30年度			平成7～30年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	1,048	0.4	0.0	17,034	1.85	0.53
45～49歳	462	0.4	0.2	12,478	2.80	1.17
50～54歳	399	0.8	0.0	14,023	3.00	1.41
55～59歳	414	1.0	0.7	17,405	2.60	1.91
60～64歳	905	0.8	0.7	29,319	2.23	2.36
65～69歳	1,144	1.5	0.2	31,413	2.13	2.65
70～74歳	855	2.1	0.2	25,728	1.79	3.08
75～79歳	182	1.1	0.0	10,479	1.46	3.63
80歳以上	112	0.9	0.9	8,050	1.37	3.38
計	5,521	1.1	0.3	165,929	2.16	2.25

(2) 平成30年度健康増進事業における肝炎ウィルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢階級	一次検診受診者数 a	一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e = (b + d) / a$	HCV抗体陽性率 (%) $f = (c + d) / a$					
		異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d								
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計				
40～44歳	370	678	369	675	1	3	0	0	0	0.3	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	
45～49歳	172	290	172	287	0	2	0	1	0	0	0.0	0.7	0.4	0.0	0.3	0.2
50～54歳	138	261	137	259	1	2	0	0	0	0.7	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
55～59歳	172	242	167	240	3	1	2	1	0	0	1.7	0.4	1.0	1.2	0.4	0.7
60～64歳	415	490	407	486	4	2	4	1	0	1	1.0	0.6	0.8	1.0	0.4	0.7
65～69歳	661	483	652	473	9	8	0	2	0	0	1.4	1.7	1.5	0.0	0.4	0.2
70～74歳	473	382	463	372	9	9	1	1	0	0	1.9	2.4	2.1	0.2	0.3	0.2
75～79歳	108	74	107	73	1	1	0	0	0	0.9	1.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	52	60	52	58	0	1	0	1	0	0	0.0	1.7	0.9	0.0	1.7	0.9
計	2,561	2,960	2,526	2,923	28	29	7	7	0	1	1.1	1.0	1.1	0.3	0.3	0.3
合 計	5,521		5,449		57		14		1		1.1		0.3			

2) 精密検査結果(年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者	精密検査結果												肝臓がん発見率(%)								
			無症候性キャリア			脂 肪 肝			慢 性 肝 炎			肝 硬 変			アルコール性肝障害			肝臓がん疑い			肝臓がん		
			男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	
40~44歳	B型陽性	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45~49歳	全 体	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
50~54歳	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.000
	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55~59歳	C型陽性	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
60~64歳	B型陽性	4	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69歳	全 体	5	3	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.241
	B型陽性	3	6	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
70~74歳	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	7	8	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.000
75~79歳	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
80歳以上	B型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	B型陽性	16	22	12	18	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	C型陽性	2	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
	全 体	18	28	14	19	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	0.039
※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。	※2 「がん発見率」は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上	合 計	8	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0.018

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$			
		異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'								
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	
直 営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
保 健 事 業 団	923	1,045	909	1,033	11	11	3	1	0	0	1.2	1.1	1.1	0.3	0.1	0.2
中国労働衛生協会	22	30	22	30	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病 院	450	547	441	542	7	4	2	0	0	1	1.6	0.9	1.2	0.4	0.2	0.3
診 療 所	1,166	1,338	1,154	1,318	10	14	2	6	0	0	0.9	1.0	1.0	0.2	0.4	0.3
計	2,561	2,960	2,526	2,923	28	29	7	7	0	1	1.1	1.0	1.1	0.3	0.3	0.3
合 計	5,521		5,449		57		14		1		1.1			0.3		

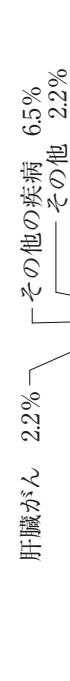
b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	区 分	精 密 検 査 受 診 者	精密検査結果												肝 発 見 率 $h' = g'/a'$			
			無症候性キャリア		脂 肪 肝		慢 性 肝 炎		肝 硬 变		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝 脏 g'		その他の疾病	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
直 營	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健事業團	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	6	5	6	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	C型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	全 体	6	9	5	7	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病 院	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
診 療 所	B型陽性	2	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全 体	3	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	8	11	6	9	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	5	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0
合 計	全 体	9	16	7	9	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.086
	B型陽性	16	22	12	18	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	C型陽性	2	6	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0
合 計	全 体	18	28	14	19	1	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	38	30	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	C型陽性	8	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
合 計	全 体	46	33	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

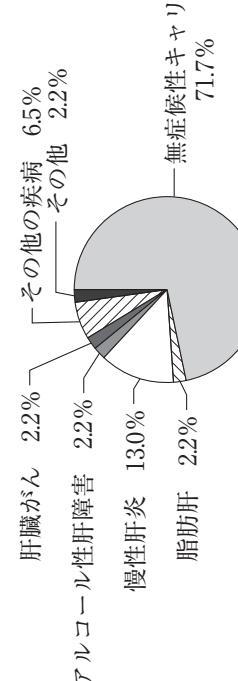
*1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾患の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。

*2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」者のみを計上。

精密検査結果（肝炎ウイルス検査）



精密検査結果（肝炎ウイルス検査）



4) 平成30年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
実施市町村数=19

市町名	対象者数	受診者数			陽性者数			精密検査結果別人員										
		車検診	施設検診	計 ^{E=D/A}	HBS抗原のみ陽性(%)	HCV抗原のみ陽性(%)	HBs抗原HCV抗原とも陽性(%)	HBS抗原HCV抗原とも陽性(%)	精査受診者数 ^{K=L/(F+G+H)}	精査受診者率 ^{M=N/(F+G+H)} (%)	精査受診者率 ^{N/M} (%)	かん疑い	かん有所見者	がん見率(%)				
鳥取市	64,301	564	1,233	1,797	2.8	9	2	0	0.5	0.1	8	72.7	6	2	0	0	2	0.000
米子市	64,851	0	1,191	1,191	1.8	8	5	0	0.7	0.4	11	84.6	6	4	0	1	5	0.084
倉吉市	17,274	117	303	420	2.4	5	3	0	1.2	0.7	6	75.0	5	1	0	0	1	0.000
境港市	11,206	57	261	318	2.8	5	0	0	1.6	0.0	3	60.0	3	0	0	0	0	0.000
岩美町	4,582	152	0	152	3.3	5	1	0	3.3	0.7	3	50.0	2	1	0	0	1	0.000
八頭町	6,230	130	0	130	2.1	3	0	0	2.3	0.0	3	100.0	2	1	0	0	1	0.000
若桜町	1,505	13	14	27	1.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,117	42	14	56	1.8	1	0	0	1.8	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	5,218	61	194	255	4.9	8	2	0	3.1	0.8	3	30.0	2	1	0	0	1	0.000
三朝町	2,574	266	66	332	12.9	3	0	1	1.2	0.3	3	75.0	2	1	0	0	1	0.000
北栄町	4,185	122	72	194	4.6	3	1	0	1.5	0.5	1	25.0	0	1	0	0	1	0.000
琴浦町	3,469	52	20	72	2.1	2	0	0	2.8	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
南部町	4,011	22	67	89	2.2	1	0	0	1.1	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
伯耆町	3,634	93	0	93	2.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	968	11	0	11	1.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	5,074	266	0	266	5.2	2	0	0	0.8	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
日南町	1,508	29	34	63	4.2	1	0	0	1.6	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,916	2	32	34	1.8	1	0	0	2.9	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
江府町	1,412	21	0	21	1.5	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	207,065	2,020	3,501	5,521	2.7	57	14	1	1.1	0.3	46	63.9	33	12	0	1	13	0.018
東部	79,735	901	1,261	2,162	2.7	18	3	0	0.8	0.1	15	71.4	11	4	0	0	4	0.000
中部	32,720	618	655	1,273	3.9	21	6	1	1.7	0.5	14	50.0	10	4	0	0	4	0.000
西部	94,610	501	1,585	2,086	2.2	18	5	0	0.9	0.2	17	73.9	12	4	0	1	5	0.048

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 平成7～30年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果
1) 平成30年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

別級確率著者定期検査結果スル型B肝炎ウイルス陽性30年度平成11)

当事業でのフォローは不必要であると認めた者を指す。

(年齢階級別)
平成30年度C型肝炎検査結果

「その他」は、転出、死亡、入院中の看護及び医師が他の疾患の罹患等により、当事業でのオロニーは不要であると認めた旨を指す。

(4) 平成7～30年度肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性						HCV抗体陽性						
			陽性者数 B		陽性率 (%) C=B/A			陽性者数 D		陽性率 (%) E=D/A					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計			
40～44歳	5,635	11,399	128	187	2.27	1.64	1.85	41	50	0.73	0.44	0.53			
45～49歳	3,975	8,503	130	220	3.27	2.59	2.80	43	103	1.08	1.21	1.17			
50～54歳	4,178	9,845	146	275	3.49	2.79	3.00	41	157	0.98	1.59	1.41			
55～59歳	5,258	12,147	142	310	2.70	2.55	2.60	82	251	1.56	2.07	1.91			
60～64歳	11,279	18,040	307	348	2.72	1.93	2.23	216	476	1.92	2.64	2.36			
65～69歳	13,486	17,927	317	353	2.35	1.97	2.13	307	525	2.28	2.93	2.65			
70～74歳	10,834	14,894	211	250	1.95	1.68	1.79	317	476	2.93	3.20	3.08			
75～79歳	4,144	6,335	68	85	1.64	1.34	1.46	150	230	3.62	3.63	3.63			
80歳以上	2,981	5,069	33	77	1.11	1.52	1.37	115	157	3.86	3.10	3.38			
計	61,770	104,159	1,482	2,105	2.40	2.02	2.16	1,312	2,425	2.12	2.33	2.25			
合 計	165,929		3,587		2.16			3,737			2.25				

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

(1) 平成30年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	60	男	肝臓がん	肝切除	2019/8/6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16	生存

(2) 平成30年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	75	女	異常なし							B	3.0	20	生存	
2	85	女	肝臓がん	TAE	2016/1/26	単発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1.0		生存
3	88	女	肝臓がん	無	2019/1/21	単発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688.9	54	生存
4	69	女	肝臓がん	肝切除	2019/2/25	不明	S7		腫瘍	無	B	2.1	11	生存
5	77	男	不明								B	2.0	3500	
6	71	男	肝臓がん	RFA	2018/1/31	2個	S7	21×19	腫瘍	有	B	3.5	28	生存
7	79	男	肝血管腫								C	4.6	10	生存
8	74	女	肝臓がん	TAE		3個	S358	10×10	腫瘍	無	C	1603.0	27	生存
9	82	男	異常なし								C			
10	97	女	肝臓がん	無	2019/3/22	単発	右葉	50	腫瘍	有	C	866.4		死亡
11	85	男	肝臓がん疑い	無	2018/5/9	2個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966.0		生存
12	83	女	肝臓がん	肝切除	2019/5/8	単発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3.5	17	生存

7. 全国がん検診実績との比較

平成29年度（※69歳以下の実績）

(単位：人 %)

区分	平成29年度実績 (鳥取県)	平成29年度実績 (全国)	留意事項
胃がん検診	対象者数（人）	76,814	52,477,065 ○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ
	受診者数（人）	27,300	1,883,116 ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値
	受診率（%）	35.5	3.6 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く（以下の部位も同じ）
	要精検者数（人）	562	121,255
	要精検率（%）	7.85	6.44
	精検受診者数(人)	464	96,471
	精検受診率（%）	82.6	79.6
	がんの者（人）	39	1,419
	がん発見率（%）	0.14	0.08
子宮頸部がん検診	対象者数（人）	59,087	40,098,839 ○「頸部のみ」の数値
	受診者数（人）	26,521	3,695,629 ○全国と比較するための受診率
	受診率（%）	44.9(64.4)	(16.1) 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率（ ）を算定している。 $\frac{\text{(前年度受診者数)} + \text{(当該年度受診者数)} - \text{(前年度及び当該年度2年連続受診者数)}}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数（人）	317	81,340 ※受診率の計算（厚生労働省老人保健事業報告数値を使用）
	要精検率（%）	1.20	2.20 全国 $\frac{(3,804,714) + (3,695,629) - (1,032,961)}{(40,098,839)} = 16.1$
	精検受診者数(人)	248	61,132 鳥取 $\frac{(26,285) + (26,521) - (14,740)}{(59,087)} = 64.4$
	精検受診率（%）	78.2	75.2
	がんの者（人）	9	1,189
	がん発見率（%）	0.03	0.03
肺がん検診	対象者数（人）	76,814	52,484,735 ○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値（「喀痰のみ」は除く）
	受診者数（人）	26,933	3,883,052 ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診率（%）	35.1	7.4
	要精検者数（人）	735	60,381
	要精検率（%）	2.73	1.55
	精検受診者数(人)	655	50,070
	精検受診率（%）	89.1	82.9
	がんの者（人）	12	1,249
	がん発見率（%）	0.04	0.03

区分	平成29年度実績 (鳥取県)	平成29年度実績 (全国)	留意事項
乳がん検診	対象者数（人）	44,660	26,279,498 ○全国と比較するための受診率
	受診者数（人）	14,516	2,437,646 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率（ ）を算定している。
	受診率（%）	32.5(62.7)	(17.4) $\frac{(前年度受診者数) + (当該年度受診者数) - (前年度及び当該年度2年連続受診者数)}{当該年度の対象者数}$
	要精検者数（人）	880	158,521 ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	要精検率（%）	6.06	6.50
	精検受診者数(人)	848	140,368 全国 $\frac{(2,584,439) + (2,437,646) - (453,208)}{(26,279,498)} = 17.4$
	精検受診率（%）	96.4	88.5 鳥取 $\frac{(14,764) + (14,516) - (1,263)}{(44,660)} = 62.7$
	がんの者（人）	51	6,949
	がん発見率（%）	0.35	0.29
大腸がん検診	対象者数（人）	76,814	52,529,230
	受診者数（人）	30,140	4,387,223
	受診率（%）	39.2	8.4
	要精検者数（人）	2,177	261,932
	要精検率（%）	7.22	5.97
	精検受診者数(人)	1,695	182,441
	精検受診率（%）	77.9	69.7
	がんの者（人）	77	7,199
	がん発見率（%）	0.26	0.16

(出典) 鳥取県数値＝鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値＝地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者＝「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

平成30年度実績

		胃がん				
		国指標	鳥取県実績			備考
			年齢上限なし	~69才まで		
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.3%	34.1%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.6%	7.1%		
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	88.8%	89.1%		
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.32%	0.22%		
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.7%	1.7%		

		肺がん				
		国指標	鳥取県実績			備考
			年齢上限なし	~69才まで		
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.1%	33.4%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.7%	3.0%		
精検受診率	許容値	70%以上	90.9%	91.0%		
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.06%	0.04%		
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	1.5%	1.2%		

		大腸がん				
		国指標	鳥取県実績			備考
			年齢上限なし	~69才まで		
がん検診受診率	目標値	50%達成	30.1%	37.3%		
要精検率	許容値	7.0%以下	8.3%	6.6%		
精検受診率	許容値	70%以上	77.9%	76.7%		
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.30%	0.22%		
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.6%	3.4%		

		子宮がん				
		国指標	鳥取県実績			備考
			年齢上限なし	~69才まで		
がん検診受診率	目標値	50%達成	25.0%	44.8%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.69%	1.96%		
精検受診率	許容値	70%以上	78.3%	79.0%		
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.03%	0.03%		
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	1.6%	1.5%		

		乳がん				
		国指標	鳥取県実績			備考
			年齢上限なし	~69才まで		
がん検診受診率	目標値	50%達成	16.5%	31.5%		
要精検率	許容値	11.0%以下	5.98%	6.62%		
精検受診率	許容値	80%以上	94.6%	94.6%		
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.31%	0.32%		
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	5.26%	4.83%		

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 令和元年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和元年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事業名	開催日時	場所	出席者	内容
胃がん 胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和2年2月22日（土）午後4時～午後5時50分	鳥取市 鳥取県健康会館	140名	演題：「胃癌治療の最近のトピックス」 講師：鳥取大学医学部器官制御外科学講座病態制御外科学教授 藤原義之先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院
子宮がん 子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	令和2年2月16日（日）午後4時～午後5時40分	米子市 米子コソベンションセンター	53名	演題：「子宮頸部の病理と組織診」 講師：熊本大学病理診断科教授 三上芳喜先生 症例提示4例
肺がん 肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和2年2月29日（土）午後4時～午後5時40分	米子市 鳥取県西部医師会館	77名	演題：「肺がんCT検診とすりガラス陰影」 講師：イーメディカル東京遠隔画像診断センター 柳沼龍太郎先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—2例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥大医 胸部外科 上田康仁先生 野坂祐仁先生 中西敦之先生
乳がん 乳がん検診従事者講習会及び第27回鳥取がん症例発見乳見会	令和元年8月31日（土）午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	34名	演題：「ターンシングボイントを迎えた乳がん検診」 講師：松江赤十字病院副院长 村田陽子先生 症例検討 東部—2例：鳥取県立中央病院 中部—2例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 深谷由美先生 大田里香子先生 加藤彩先生
大腸がん 大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和元年9月14日（土）午後4時～午後5時40分	米子市 鳥取県西部医師会館	69名	演題：「大腸がん検診について」 講師：長崎みなとメディカルセンター消化器内科医長 本田徹郎先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：済生会境港総合病院 柳谷淳志先生 鳥飼勇介先生 佐々木祐一郎先生
肝臓がん 肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和2年2月15日（土）午後4時～午後5時45分	鳥取市 鳥取県健康会館	111名	演題：「肝疾患対策のAtoZ（一般診療から行政対策まで）」 講師：日野病院組合日野病院院長 孝田雅彦先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院 岡本敏明先生 三好謙一先生 西向栄治先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和2年2月22日（土） 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取生協病院 森 田 照 美

症 例：40歳代 男性

既往歴：35歳頃、メニエール病、アトピー性皮膚炎

検診歴：2017年の胃がん検診（胃透視）では異常なし。2019年8月の胃がん検診にて胃体下部前壁
大弯寄りに不整形陰影斑を指摘された。

経 過：上記精査目的に当院で上部消化管内視鏡検査が施行され、胃体下部前壁大弯寄りに15mm大、
ひだ集中・途絶を伴い境界明瞭、褪色調の浅い陥凹性病変を認めた。同部位の生検にて
sigと診断され、同年9月に腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行された。

病 理：M、Ant、Type 0-IIc、15×17mm、sig、pT1a (M)、ly0、v0、pPM0、pDM0、pN0、M0、
StageIA

考 察：2017年の検診では今回の病変は指摘できないが、2018年にも撮影していればより詳細に比
較検討できたと思われる。本症例のように胃透視検査中に異常所見に気づいた場合、追加
撮影することでより詳細に病変が描出され、早期癌の診断に繋がり得ると考える。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 鳥 飼 勇 介

症 例：61歳 男性

検診歴：毎年検診を受けられており、2016年胃がん検診（胃透視）で異常なし。翌年の2017年の胃
がん検診でも異常なしと判定され、2018年の検診で前庭部小弯に陥凹を伴う隆起性病変を
指摘された。

既往歴：高血圧、高コレステロール血症、高尿酸血症

経 過：上記精査目的のため当院で上部消化管内視鏡が施行され、胃前庭部小弯に2型の4cm大の
腫瘍性病変を認めた。同部位の生検からtub1、tub2を認められた。後日当院消化器外科
にて幽門側胃切除を施行された。

病 理：Adenocarcinoma、tub1>tub2、SS、Ly1a、V1、INF β、intermediate type PM(-)、
DM(-)、n4d(+)

考 察：2018年の胃透視検査では明らかに胃前庭部小弯に隆起性病変を認めているが、サイズは小
さいものの2017年の検診でも同部位に腫瘍性病変を認めていた。日頃から注意深い観察・
読影が必要だと考えさせられる症例であった。

[西部症例]

提出者：山陰労災病院 謝 花 典 子

症 例：75歳 男性

既往歴：高血圧

2004年 胃前庭部早期癌で幽門側胃切除術（stage I）

検診歴：2014年度、2015年度、2017年度 施設内視鏡検診では、残胃ということのみで異常を指摘されなかった。

現病歴：2018年11月の施設内視鏡検診で、「残胃癌」と診断、「要治療」となり、博愛病院紹介受診となった。精査後、残胃全摘術が施行された。

病 理：U、Type4、65×60mm、sig + muc、pT3 (SS)、Stage II B (T3 N1)

考 察：前年度画像の見直しでは、明らかな指摘は困難ではあったが、噴門部に、一部やや隆起した不整な粘膜面が認められた。この症例は未分化な組織であり、急速に進展発育したものと考えられる。噴門部は見落としやすい部位のひとつであり、残胃の体上部・噴門部の見上げ観察は難しい場合もあるが、360度詳細な観察を心掛け、読影においてもわずかな異常所見の拾い上げが大切であると思われる。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 令和2年2月16日（日） 午後4時～午後5時40分

場 所 米子コンベンションセンター

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科 大石徹郎講師の進行により、施設検診4例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科 千酌 潤助教より下記の4症例が提示された。

症例1は経年受診の50代女性。2017年度検診でLSIL、2018年度にはHSILの判定となり、生検による組織診断は扁平上皮癌であった（子宮頸癌IB1期）。

症例2は5年間の検診未受診後の30代女性。検診の結果はSCCであり、子宮頸癌IB1期と診断された。

症例3は2015年度検診ではNILMであった40代女性。3年間の未受診の後、2018年度検診でHSILとなり、子宮頸癌（通常型内頸部腺癌）IA1期と子宮体癌IA期（類内膜癌G1）の重複癌と診断された。

症例4は30代女性。2013年妊娠初期検査でHSILを指摘されフォローが開始されたが、出産後に受診されなかった。その後2015年、2018年と2回の妊娠・出産で同様の経過を繰り返され（妊娠初期検査でそれぞれHSIL、ASC-US）、最終的に分娩後の子宮頸部円錐切除術により子宮頸癌IA2期と診断された。

検診未受診者に対する受診勧奨と適切な検診受診間隔の重要性が再認識された。要精検者の精密検査あるいは経過観察では遅滞のない受診が必要である。特に、妊娠初期に細胞診異常が検出された場合には、分娩後未受診となりうることを想定したより積極的な受診勧奨が望まれる。

令和元年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
						組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例 1	51歳	H29. 9. 26	梅沢産婦人科	LSIL	さくらレディースクリニック	H30. 5. 31 HSIL (CIN2) 経過観察			
		H30. 10. 6	さくらレディースクリニック	HSIL	さくらレディースクリニック	扁平上皮癌	pT1b1N0M0	I B1期	鳥取県立厚生病院
症例 2	37歳	H25. 2. 8	レディースクリニック小笠産婦人科	NILM	鳥取県立厚生病院	扁平上皮癌	pT1b1N0M0	I B1期	鳥取県立厚生病院
		H30. 12. 7	はまよしレディースクリニック	SCC					
症例 3	49歳	H25. 10. 21	母と子の長田産科婦人科クリニック	頸部 NILM 体部なし 頸部 NILM 体部なし	彦名レディースクリニック	子宮頸部腺癌 子宮頸部腺癌 子宮頸部腺癌 子宮頸部腺癌	pT1a1N0M0 pT1a1N0M0 pT1a1N0M0 pT1a1N0M0	I A1期 I A期	鳥取大学医学部附属病院
		H27. 12. 21	母と子の長田産科婦人科クリニック	頸部 HSIL 体部 疑陽性	彦名レディースクリニック				
		H30. 11. 30	彦名レディースクリニック	頸部 HSIL 体部 疑陽性					
症例 4	32歳	H25. 6. 19	中曾産婦人科 (妊娠)	HSIL	鳥取大学医学部附属病院	扁平上皮癌 (HPV16型陽性)	pT1a2N0M0	I A2期	鳥取大学医学部附属病院
		H27. 9. 25	中曾産婦人科 (妊娠)	HSIL					
		H30. 2. 21	中曾産婦人科 (妊娠)	ASC-US					
		H30. 9. 18	中曾産婦人科	HSIL					

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 令和2年2月29日（土） 午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 上 田 康 仁

症 例：66歳 男性

現病歴：平成29年までは検診で異常を指摘されていなかった。平成30年12月4日検診の喀痰細胞診陽性のため3月8日初診。

生活歴：喫煙歴30本/日×40年 近年は電子タバコ 飲酒歴ビール500ml/日 職業歴：トラック運転手、現在は年金生活をしている アスベスト曝露：なし

臨床経過：胸部CT、耳鼻科診察や消化器内視鏡検査で異常所見を認めなかった。呼吸器内視鏡検査を施行したところ、右上葉のB1-3の分岐部に腫瘍性病変を認め、生検で扁平上皮癌の結果を得たため右上葉切除術を施行した。

考 察：本例は喀痰細胞診陽性で精査となつたが、CTでも異常所見の指摘が困難であった。喀痰細胞診は中枢型肺癌のスクリーニングとして高危険群に対して行われるが、感度は高いものではなく、これを契機に発見される肺癌は鳥取県でも年1例あるかどうかという程度である。中枢型肺癌自体が減少傾向にあるため、今後も重要な意味を持つかは疑問ではあるが、貴重な症例と思われたため報告した。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 野 坂 祐 仁

症例1：60歳代 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで毎年職場検診を受けていたが異常を指摘されたことはなかった。2019年8月職場の検診で異常を指摘され当院を受診した。

既往歴：大腸ポリープ（50歳代）、白内障

喫煙歴：なし

臨床経過：胸部X線では、右下肺野肺門部付近に2cm大の結節影を認めた。胸部CTでは右中葉S5に $2.2 \times 1.7 \times 1.6$ cm大、C/T比：1.0の不整形結節を認めた。気管支鏡下生検で肺腺癌cT1cN0M0 Stage I A3と診断し、胸腔鏡下右肺中葉切除+ND2a-1リンパ節郭清を施行した。術後病理病期診断は、Adenocarcinoma (acinar60%、lepidic40%)、pT1b (total size $2.6 \times 2.0 \times 2.0$ cm、solid part 1.2×1.0 cm) N0M0、pStage I A2であった。外来にて術後経過観察中である。

症例2：70歳代、女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで毎年検診を受けていたが異常を指摘されたことはなかった。2019年8月肺がん検診異常を指摘され当院を受診した。

既往歴：高血圧、左膝関節手術

喫煙歴：なし

臨床経過：胸部X線では、右下肺野末梢に2cm大の結節影を認めた。胸部CTでは右下葉S8に $2.1 \times$

1.5×1.5cm大、充実径1.3cm、C/T比：0.62の不整形結節を認めた。肺癌を強く疑い診断と治療を兼ねて胸腔鏡下手術の方針とした。術中迅速組織診断で肺腺癌と診断し、胸腔鏡下右肺下葉切除+ND2a-2リンパ節郭清を施行した。術後病理病期診断は、Adenocarcinoma in situ、pTis (total size 1.3×1.2cm、solid part 0cm) NOM0、pStage0であった。外来にて術後経過観察中である。

考 察：胸部X線写真の読影には多くの方法や環境のバリエーションがある。検診で何百人の写真を読影しなければならない場合や診療で個々の患者の写真を時間をかけて読影できる場合がある。また、読影方法も胸部X線写真のフィルム、モニタなどさまざまである。異常所見を拾い上げるためのオーソドックスな読影方法の一例をあげる。a. 気管、気管分岐部、左右気管支、上葉枝口、中間気管支管を確認する。b. 大動脈肺動脈窓 (A-P window) を確認する。c. 下行大動脈左縁、左横隔膜面内側、食道奇静脉陥凹を確認する。d. 心陰影の大きさ・形状を確認、肺門の大きさ・濃度を確認する。e. 両側肺野を比較しながら確認する（心陰影・横隔膜に重なった肺野も）。f. 骨（椎体、鎖骨、肩甲骨、肋骨）、部組織を確認する。影の注意点としては、①肺野・肺門は左右を比較する。②隠れた肺野（肺尖、横隔膜、心陰影）を意識する。③過去の画像と比較する。④背景肺野の性状に留意する。などが挙げられる。検診で発見され、手術を施行した肺腺癌の2例を経験した。毎年検診を受け比較読影をすることが早期発見につながると考えられる。

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 中 西 敦 之

症 例：50歳代 男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：検診は毎年受診していたが異常指摘歴はなかった。2019年の検診胸部X線で異常陰影を指摘されたため胸部CTを撮影すると左上葉に結節を認めた。肺癌を疑われ手術目的に当科を受診した。

喫煙歴：過去喫煙 20本/日×30年 職業：整備士 アスベスト曝露歴：なし

臨床経過：胸部X線では、左上肺野第1弓外側にシルエットサイン陰性の35mm大の腫瘤影を認め、胸部CTでは左上葉S1+2に最大径27mm大の境界明瞭・辺縁不整な充実結節を認めた。PET-CT検査では結節に一致して、早期相でSUVmax15.24のFDG高集積を認めた。PET-CT・頭部造影MRIでは明らかな遠隔転移を疑う所見は認めなかった。肺結節に対して当院呼吸器内科で気管支鏡下生検を施行した。悪性所見は認めなかったが、臨床上悪性腫瘍が否定できなかったことから、当科で診断的治療目的に胸腔鏡下左上葉切除術+リンパ節郭清ND2a-2を施行した。病理所見より、左上葉肺癌（腺癌：pT2aN1M0 stage II B）の診断に至った。術後補助化学療法としてシスプラチナ+ナベルビンを4コース施行し完遂した。現在、外来にて術後経過観察中である。

考 察：本症例では2018年以前の胸部X線では明らかな異常影は指摘困難であり、急激に増大した肺癌の症例であった。読影のポイントは、左第1弓のダブルシャドウを見落とさない事である。加えて、肺門・縦隔の読影で大事なのは、血管影では「説明のつかない」影を見落とさないことであり、血管影の「くの字」「逆くの字」が崩れている場合は精査に回すべきであると記載してある文献も散見される。本症例のように急激な増大傾向を示す悪性腫瘍もあり、本症例でもし2019年の検診を受診しなかった場合、手術不可能な段階まで肺癌は進行していた可能性が十分にある。本症例は比較的若年であり、こうした年代でも毎年の継続的な検診受診が肺癌の早期発見につながると改めて感じた症例であった。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 令和元年8月31日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 深 谷 由 美

「検診発見の2症例」

症例1：70歳代 女性 閉経後

主 訴：検診発見（カテゴリー1/カテゴリー3、左M領域のFAD）

経 過：2018年1月左乳房内側に筋状の硬結を自覚し、乳がん検診で左M領域にFADを指摘された。CC画像ではI領域にspiculaを伴う高濃度腫瘤としてカテゴリー5。

左9時方向NTD 7cmに9×4×9mmの低エコー腫瘤を認め、針生検で乳癌が確定。

乳房部分切除術とセンチネルリンパ節生検術を施行。超音波では標本中央に腫瘤が確認できましたが、標本マンモグラフィでは辺縁近くに高濃度の陰影を認めた。

迅速病理検査で断端陰性を確認し、高濃度陰影の周囲1cm程度を追加切除した。

術後病理結果は「浸潤性乳管癌、硬性型、浸潤径10mm、核grade 1、n (-)、ER: 95%、PgR: 70%、Ki67: <10%、HER 2: 0、pT1bN0M0、stage I」であった。病巣は超音波のとおり標本中央に存在した。硬癌に特徴的な組織像で病変中心部の線維化が強かったため、圧迫撮影を行わない標本マンモグラフィでは濃度差がつかず描出されなかつたと考えられた。読影時はその構成成分から予想される画像を考えながら行うことが重要である。

症例2：40歳代 女性 閉経前

主 訴：検診発見（カテゴリー1/カテゴリー4、左M領域の境界不明瞭な高濃度腫瘤影）

経 過：2017年11月の乳房超音波検診で異常なし。2018年2月のマンモグラフィ検診で左M領域の境界一部不明瞭な高濃度腫瘤を指摘された。左12時方向NTD 4cmに14×7×10mmの縦横比の小さい不整形低エコー域を認め、針生検で乳癌が確定。

乳房切除術とセンチネルリンパ節生検術を施行。

術後病理結果は「髄様癌、浸潤径15mm、核grade 3、n (-)、ER: 0%、PgR: 0%、Ki67: 40%、HER 2: 3+、pT1cN0M0、stage I」であった。髄様癌に非典型的な扁平な形態であったため超音波検診で発見できなかつた可能性もあるが、任意検診で行われている超音波検診の精度管理や症例検討なども今後必要であると思われた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 大田里香子

「構築の乱れで要精検となった2例」

鳥取県立厚生病院胸部外科1)、血管外科2)

大田里香子1)、吹野俊介1)、野坂祐仁1)、大野貴志1)、兒玉渉1)、西村謙吾2)、浜崎尚文2)

症例1：45歳 女性

検診MG左Uに構築の乱れcat4の指摘あり当科受診。左上外側部乳癌cT1cN1M0 c-stage II Aの診断で左Bt+Ax(II)施行した。invasive ductal carcinoma, scirrhous type、pT2N1aM0 p-stage II Bの診断で、術後療法としてddEC, HER+PER+PTX、放射線治療を施行した。

症例2：40歳 女性

検診MG右MOに構築の乱れcat4の指摘あり当科受診。右上外側部乳癌cT1cN0M0 c-stage Iの診断で右Bp+SN施行した。invasive ductal carcinoma, solid tubular type、右上外側部乳癌 pT1cN0M0 p-stage IAの診断で、術後治療として放射線治療施行し、ホルモン療法継続中である。

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院 加藤 彩

症 例：60歳代 女性 閉経後

主 訴：なし（乳癌検診マンモグラフィー異常影）

経 過：2018年2月、乳がん検診MMGで石灰化カテゴリー3の為、要精査となり3月当科初診。

2018年3月MMG：右M・O領域 淡く不明瞭な石灰化、線状配列 →カテゴリー4

2019年5月MMG：右M・O領域 淡く不明瞭な石灰化（増加）、線状配列 →カテゴリー4
右M/O・I領域 淡く不明瞭な石灰化（新規出現）、集簇性 →カテゴリー3

FNA（右CD境界部低エコー腫瘍）：invasive ductal carcinoma

CNB（右CD境界部低エコー腫瘍）：悪性所見なし

VAB（右CD境界部低エコー腫瘍）：ductal carcinoma

乳房MRI：右D区域 明らかな腫瘍は認めないが広範囲な造影効果を認めた

⇒MMGで石灰化病変を経年に追う事で早期に乳癌の診断に至った

術前診断：右乳癌（D区域）cTisN0M0, stage0

2019年7月、右乳房全切除術+センチネルリンパ節生検

術後診断：右乳癌（D区域）pT1miN0M0, stage IA, luminal type

術後治療としてAI剤を内服中。

まとめ：乳がん検診マンモグラフィーで石灰化を認めた場合は、悪性の可能性も考慮し経年変化を追う必要があると考える。本症例は、定期的なフォローにより石灰化数の増加や新規石灰化の出現に気付け、なおかつ低エコー腫瘍が出現した事で組織診断が実施でき、早期に乳癌の診断がついた。病変が小さい場合や、石灰化病変だけの場合にはCNBよりも組織採取量の多いVABを用いる事で確定診断の精度が上がるを考える。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和元年9月14日（土） 午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 柳 谷 淳 志

症 例：63歳 男性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：特記事項なし

家族歴：父、胃癌 母、脳卒中

生活歴：飲酒、日本酒1合/日 喫煙、20本/日×31年（30～61歳）

現病歴：前年検診の便潜血検査が陽性であったため3月に前医を受診、下部消化管内視鏡検査

(CS) 施行したところ多発大腸ポリープを認めた。2か所EMR施行、S状結腸のIsp 13mmをEMR後、鉗子で切除組織を持ちながら観察、内視鏡を抜去、病理組織の結果はAdenocarcinoma in adenomaであった。その後肛門痛出現し近医で痔核の治療を受け、8月の検診の便潜血検査が陽性であったため11月に再度前医受診、2回目のCSを勧められた。この時のCSで直腸Rbに肛門縁にかかる易出血性の30mm大の隆起性病変を指摘、当院に紹介となった。

検査・治療経過：診察時に肛門痛強く、前処置なしで内視鏡検査施行し直腸のみ観察、直腸Rbから一部肛門部の前壁にかけて2型腫瘍を認め、生検結果もAdenocarcinoma tub1であった。CT、MRIで明らかな遠隔転移や周辺臓器への浸潤は認めず、進行直腸癌（cT4aN0M0、stage II B以上）の診断で手術の方向となったが、手術時のmargin確保のため、術前CRTの方針となった。Capecitabine投与併用下での全骨盤～鼠径リンパ節領域に対するtotal 45Gy（/25fr.）の4門照射を実施、腫瘍は縮小、CRT後に腹腔鏡下直腸切断術（D3-側方LNs郭清）を行った。

手術病理：直腸Rb、Type3（CRT後）、12×22mm（潰瘍の大きさ12×5mm）、Adenocarcinoma、muc>tub1、pT4b（浸潤臓器 外括約筋）、INFb、ly0 v1 pPM0、pDM0、pRM0、pR0、pCurA

TNM病期（UICC 7thed）：pT4 pN0 pM0 pStageIIc

検 討：本症例の初回のCSの内視鏡写真を見返すと肛門部に一部発赤調の粘膜隆起（粘膜下腫瘍様）が写っていた。内視鏡写真は深部からEMR治療まで十分な空気量ときれいな内視鏡画面で撮影されていたが、EMRの組織を持ち鉗子で回収後は観察に制限があり、肛門部も痔核の発赤として検査は終了となっていた。8か月後の2回目のCSで、直腸病変は反転観察なしで明らかな腫瘍病変として確認できた。今回mucの組織型が混在する病変で、肛門部で一部粘膜下腫瘍様の形態を示したこと、多発大腸ポリープが存在しEMR後の組織を持ち鉗子で回収することになったため十分な肛門部の観察ができていなかったことが重なり、初回のCSで診断できなかった教訓的な症例であった。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 鳥 飼 勇 介

症 例：83歳 男性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：健診で便潜血陽性（+ / +）を指摘され、大腸内視鏡検査を施行され盲腸に腫瘍性病変を認めたため当院に紹介となる。

既往歴：前立腺癌、慢性心不全、心房細動

生活歴：飲酒：ビール350ml/週3、喫煙：10本×65年、アレルギーなし

常用薬：リバーロキサバン10mg、アジルサルタン20mg、プレガバリン100mg

家族歴：特記事項なし

検査・治療経過：盲腸に2cm大の浅い潰瘍性病変を伴う2型腫瘍を認めたが内視鏡切除は困難と考え生検を行い終了。生検結果ではAdenocarcinoma tub1の診断であったため当院消化器外科にて腹腔鏡下回盲部切除を施行された。

病理診断：Adenocarcinoma、tub1、MP、int、INFb、Ly1、v0、pm（-）、dm（-）、rm（-）、N0

検 討：本症例は毎年大腸がん検診を受け、初めて異常の指摘を受け進行癌が発見された症例であった。毎年検査をすることの重要性を改めて認識させられる症例であったと考えられた。

[西部症例]

提出者：済生会境港総合病院 佐々木 祐一郎

症 例：60歳代 男性

主 訴：自覚症状なし/便潜血陽性

既往歴：糖尿病

生活歴：特記事項なし ※海外渡航歴なし ※性的接觸歴なし

現病歴：201X年、便潜血陽性の精査目的で当科外来を受診（初診）した。

大腸内視鏡検査：盲腸部に限局して汚い白苔を伴う不整型潰瘍を認め周囲にはびらんが散在していた。白苔は潰瘍からクリーム状ににじみ出ており粘液性が強く洗浄でもはがれにくい状態であった。2型大腸癌、悪性リンパ腫などと鑑別を要するためこの白苔を含んだ病変中央部および辺縁から生検を施行した。

生検の病理診断：特殊染色PAS反応陽性となる病原体を確認しHE染色では病原体による赤血球貪食像を認めた。病原体は栄養型アメーバ原虫と判明した。以上より便潜血陽性を契機に診断した赤痢アメーバと診断した。

治 療：メトロニダゾール1500mgを10日間投与した。診断から約2ヶ月後の内視鏡では盲腸部にみられた不整潰瘍やびらんは全て消失し瘢痕を残すのみとなっており治癒を確認した。

検 討：本症例のように便潜血を契機に診断される例があることを念頭に置いておく必要があると思われた。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和2年2月15日（土） 午後4時～午後5時45分

場 所 鳥取県健康会館

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 岡 本 敏 明

「スクリーニングで発見された糖尿病患者における肝細胞癌の1例」

B型、C型肝炎や肝硬変患者は、肝癌診療ガイドラインにおいて、肝細胞癌の高危険群としてサーベイランスの対象とされている。一方、近年増加している非B非C型肝癌に対しては、有効なサーベイランス方法が確立していない。今回スクリーニングを契機に発見された糖尿病患者における肝細胞癌の症例を経験したので報告する。

症 例：80歳代 男性

主 訴：特になし、肝腫瘍精査目的

既往歴：狭心症、高血圧、糖尿病、肺気腫

生活歴：喫煙：6本×60年、飲酒：なし

常用薬：バルサルタン、テオドール、オメプラゾール、アドエア

現病歴：糖尿病、高血圧などで近医フォロー中。2年毎にスクリーニングのUSを受けており、肝左葉に45mmのSOLを認めたため当科紹介受診となった。

理学所見：身長：168cm、体重：54.8kg、BMI：20.6

結膜：貧血、黄疸なし

腹部：平坦・軟、自発痛・圧痛なし

血液検査所見：WBC $49 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、Hb 13.5g/dl、PLT $11.3 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、Alb 3.9g/dl、T-Bil 0.64mg/dl、AST 18IU/L、ALT 14IU/L、ALP 185IU/L、 γ GTP 18IU/L、FBS 114mg/dl、HbA1c 5.9%、PT 79.2%、AFP 1.65ng/ml、PIVKA II 63mAU/ml、HBs抗原陰性、HCV抗体陰性

ダイナミックCT：肝左葉外側区に46×39mmの低吸収域を認める。早期濃染、多結節状にwash outを呈する。明らかな脈管浸潤は認めない。

EOB-MRI：T1強調像で低信号、T2強調像で淡い高信号、拡散強調像で高信号を呈する。肝細胞相では低信号を呈し、腫瘍腹側は正常肝と等信号を呈している。

経 過：画像所見よりStage II (T2N0M0) の肝細胞癌と診断、肝障害度Bであり、ガイドラインに沿って、肝左葉切除術を施行した。病理所見より高～中分化型肝細胞癌と診断した。術後定期画像フォローを行っているが、現在のところ再発無く経過している。

考 察：抗ウイルス剤の登場により、近年ウイルス性肝癌が減少し、非B非C肝癌の占める割合が増加している。非B非C肝癌の背景肝疾患は、アルコール(48%)、非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)(31%)が大部分を占める。また、糖尿病における肝発癌のリスクは1.9-2.3倍と高く、NAFLDと糖尿病は密接に関係している。これらの患者において、FIB4-indexなどの線維化マーカーが肝発癌の危険群の拾い上げに有用との報告があり、本患者も高値であった。今後、非B非C肝癌のリスクが高い患者のサーベイランスをどのようにしていくかが課題となる。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 三 好 謙 一

ラジオ波焼灼療法後に急速増悪を示した肝細胞癌の一例

症 例：49歳 男性

既往歴：33歳時、胆石で手術

生活歴：飲酒 ビール350ml/日×25年、喫煙 20本/日×25年

身体所見：身長175cm、体重160kg、BMI25.2、腹部：膨隆、軟、圧痛なし、波動なし

現病歴：B型肝硬変に対し肝癌サーベイランスを受けていたが、経時にPIVKA IIの上昇を認めた。複数回dynamic-CT施行するも病変を指摘できず、当院紹介となった。

血液検査：WBC：4.63×10³/μl、RBC：487×10⁴/μl、Hb：16.4g/dl、Plt：11.4×10⁴/μl、TP：6.86g/dl、ALB：3.93g/dl、T-Bil：3.45mg/dl、AST：47IU/l、ALT：31IU/l、ALP：312IU/l、γ-GTP：66IU/l、LDH：344IU/l、CK：206IU/l、BUN：10.2mg/dl、Cr：0.82mg/dl、Glu：120mg/dl、PT：76%、CRP：0.17mg/dl、AFP：4.2ng/ml、PIVKA II：690.59mAU/ml、HBsAg：+、HBeAg：-、HBeAb：+、HBV-DNA：検出感度以下、ICG15R：88.3%

EOB-MRI：肝S5に18mm大の動脈相で濃染、肝細胞相で低信号を示す腫瘍あり。読影でも指摘はなかったが、後方視的にS8頂部に小さな線状のDWI高信号域あり

経 過：肝細胞癌cStage 1と診断。PIVKA II高値であり高悪性度が予想されたがICG15R値が不良でありラジオ波焼灼療法を施行した。その後の外来採血でPIVKA IIは1591.2mAU/mlと更に上昇を認め、肝予備能はChild-Pugh：8Bまでの低下を認めた。dynamic-CTでS5RFA部に再発を認めなかつたが肝内門脈枝全てに腫瘍栓を認めた。

肝動注療法を繰り返すも腫瘍制御は得られず、sorafenib導入するも手足症候群が制御できず継続できなかつた。以後はbest supportive careの方針とした。初発より9か月の経過で永眠された。

考 察：RFA後に急速増悪を示す肝細胞癌の一例を経験した。肝癌サーベイランスを遵守していたにも関わらず初発より9か月で死の転帰を辿ったが、18mm大単発結節からVp4腫瘍栓を伴う進行再発を來しており経過としては奇異であった。後方視的に初発時のEOB-MRIを確認すると、肝S8頂部に小さな線状のDWI高信号域が指摘された。

これが門脈腫瘍栓を反映していたとすると初発時より進行癌であったこととなり経過に矛盾しない。EOB-MRIによるdynamic-studyはCTのdynamic-studyと同等の診断精度を有しており、肝細胞相は肝癌診断特異度の極めて高い検査である。

通常成人には本剤0.1ml/kgを静脈内投与するが、1回の検査で2本以上の製剤を使用することは一般的ではない。本症例は体重160kgと高体重であったが、実際使用した薬剤も16mlではなく10ml（1本）であった。このため画像の染影が弱まり診断困難に繋がった可能性は残る一方、造影剤を使用しないDWIは腫瘍を正確に検知できた可能性がある。腹部超音波検査や血管造影検査を含めた総合的な画像解析が求められることを念頭に置くべきである。

[西部症例]

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

B型肝炎の既感染例に生じた肝癌の1例

山陰労災病院 消化器内科○西向栄治、前田直人、岸本幸廣

症 例：72歳 男性

主 訴：腹水と肝障害の精査依頼。

現病歴：元来健康。2019年11月下旬 両下肢のこむら返りが出現、近医を受診し処方を受けた。その後1週間後急におなかが張ってきた。12月上旬 近医で腹水、肝障害を指摘され紹介受診となる。

現 症：165.6cm、79.4kg（のちに腹水軽減後65kg）、意識清明、軽度黄疸、貧血なし、腹部膨満、腹水、下腿浮腫あり。既往歴：2016年検診で肝障害を指摘（AST/ALT=107/130）、HBs抗原：陰性、HCV抗体：陰性、輸血歴、針治療歴なし。

生活歴：ビール700ml/日、喫煙なし 家族歴：肝疾患や悪性腫瘍なし

初診時血液検査：末梢血液WBC3400/ μ l、Hb9.5g/dl、Plt15.7万/ μ l、凝固PT74% 生化学TBil 3.7mg/dl、Alb2.5g/dl、AST145IU/l、ALT52IU/l、rGTP312IU/l、ChE124IU/ml、Glu 92mg/ml、FIB-49.22、血清HBs抗原：陰性、HBc抗体：10.68（弱陽性、既感染）、HCV抗体：陰性、AFP 14364ng/ml、PIVKAII 33478mAU/ml、CRP0.64mg/dl

初診時US、造影CTでは、肝右葉を中心に肝内びまん性腫瘍を認め、肝辺縁は鋭で軽度慢性肝炎程度。門脈本幹腫瘍塞栓VP4、軽度脾腫、腹水貯留中等量あり。上部消化管内視鏡検査では、軽度の食道静脈瘤F1と軽度の胃静脈瘤、胃幽門前庭部毛細血管拡張症GAVEを認めた。

診 断：B型肝炎の既感染例に発症した多発性進行肝癌、門脈本幹腫瘍塞栓VP4による門脈塞栓症により門脈圧亢進症をきたしたが、基礎疾患はほぼ正常あるいは軽度の慢性肝炎程度と考えた。

考 察：本例は、非B非C型肝癌に該当するが、HBc抗体が低力価陽性であり、B型肝炎既感染例、飲酒家の72才高齢男性である。

HBV遺伝子が宿主ゲノムに組み込まれ染色体の不安定性を誘導し発癌する可能性が以前から考えられているが、HBc抗体陽性者の数が多いこと、検診効率の面から、HBV既感染例のサーベイランスの具体的な推奨ははっきりしていない。

一方で近年、サーベイランスの対象外の非B非C型肝癌が増加している。

2012の非B非C型肝癌に関する後ろ向き多施設共同コホート研究Inuyama Noblesse Studyでは、非B非C型肝癌に占める危険因子とその割合は、①男性（76%）②肝硬変（67%）③70才以上の高齢者（50%）④糖尿病（46%）⑤高血圧（43%）⑥肥満（39%）⑦多量飲酒（26%）⑧脂肪肝（24%）の順であったと報告されている。

今後、肝がん検診は従来通りのBおよびC型肝炎ウイルス感染のサーベイランスに加え、前述したような非B非C型肝癌の危険因子も考慮し、成人病対象者の生活指導投薬管理なども視野に入れフォローしてゆく必要があると思われる

まとめ：非B非C型の肝機能障害は、定期的な腹部超音波検査に加え、HBc抗体、腫瘍マーカー、FIB4 index>2.7、などに注意し、フォローしてゆく工夫が必要と思われる。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数									
胃がん	14	31	397	3	18	78	10	56	305	27	105	780
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺がん	2	2	27	12	151	151	2	9	37	16	162	215
乳がん	1	11	13	1	5	12	1	10	15	3	26	40
大腸がん	4	4	145	3	4	64	8	110	277	15	118	486
肝臓がん	5	12	231	2	3	39	1	2	324	8	17	594
合計	26回			21回			22回			69回		

IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたものについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	令和2. 4. 1～令和3. 3. 31 (2020. 4. 1～2021. 3. 31)	令和2年度中
肺がん一次検診医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31 (2018. 4. 1～2021. 3. 31)	令和2年度中	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31
子宮がん検診精密検査	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31 (2018. 4. 1～2021. 3. 31)	令和2年度中	平成30. 4. 1～令和3. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31 (2019. 4. 1～2022. 3. 31)	令和3年度中	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回／年 西部 1回／年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	3点
胃疾患研究会	東部 11回／年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回／年	3点
消化器病研究会	中部 6回／年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	3点
消化管研究会	西部 5回／年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただることとなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回／年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回／年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回／年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回／年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回／年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回／年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。

なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。

なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。

また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回／年	5点
日本乳癌学会	1回／年	5点
日本乳癌検診学会	1回／年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回／年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回／年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回／年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

〔附則2〕

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回／年	2点
胃疾患研究会	東部 11回／年	1点
消化器病研究会	中部 6回／年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	2点
消化管研究会	西部 5回／年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年3月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）
- ※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回／年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回／年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回／年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回／年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回／年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 5回／年	2点
消化器超音波研究会	西部 3回／年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 1回／年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回／年	3点
山陰肝癌治療研究会	全県 1回／年	3点

（注）上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あとがき

がん登録推進法が施行され全国がん登録の運用も順調に進んでいると思われます。いよいよがん登録の利活用が始まります。鳥取県がん対策推進県民会議に「鳥取県がん登録情報提供審査会部会」が設置され、情報提供に関する審査が開始されました。個人情報を保護しつつ、鳥取県におけるがん対策の施策に活かされることが期待されます。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第26報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像も一覧いただけるものと考えます。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、葉狩美穂さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 岡田克夫